

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	池田 雅明
主な担当科目	ジャズアンサンブルⅠ①②,ジャズアンサンブルⅠ③④,ジャズアンサンブルⅡ①②,ジャズ演奏法③,ポピュラー作曲・編曲法①,コードプログレッション(ベーシック),ポピュラー作曲・編曲法②,コードプログレッション(アドバンス),ジャズの歴史と作品,パフォーマンス①②④,卒業ライブ,実技個人レッスン[ジャズ実技①,ジャズ実技②],実技グループレッスン[インストゥルメンツⅡ①]
シラバス	次ページをご参照ください
2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	昨年度に引き続きコロナ対策を施しながらの対面授業に際し、学生や教員からの様々な要望に対処出来るよう尽力すると共に、授業の更なるIT化に向けてTeamsやFormsを活用する等、より円滑な授業を目指す。また、学生の実技面を向上をサポートするべく、練習室や各教室の備品をアップデートし、出来る限りの練習環境を整えていく。
2022年の教育に関する自己評価	昨年度に培ったジャズ・ポピュラー音楽学内組織の配信技術を学生達にも伝授し、規則を守れば練習室からの配信をしつつ自由に練習が出来るようにした。また、海外からのワークショップ再開や学生達自身のバンド練習等も助長する事で、対面による音楽本来の姿に戻す努力をした。
2022年のFD活動に関する自己評価	年間テーマである「多様な背景を持つ学生が持続的に学べる学修環境とは」に対し、個々の学生それぞれの考え方を尊重すること、言葉の壁がある留学生、精神的問題を抱える学生に寄り添うことを更に意識し、実践した。但し、日本語未習熟の留学生の欠席数が増える傾向にあり、今後は教員だけではなく留学生同志の協力も仰ぎたい。
授業改善のために取り入れた研修内容	「コロナ禍を経た教育方法」の実践例として、新一年生へのiPad配布を踏まえ、授業内のTeams活用を更に助長した。授業用資料はもとより出席数や意見交換、更には業務連絡までを統括する事ができ、授業の円滑化を図る事ができた。また、日本語未習熟の留学生に対しても、教員による翻訳アプリの活用や、留学生同士での助け合いを促し、出来るだけコンタクトを取る努力をした。

科目名－クラス名

ジャズアンサンブルⅠ①

ジャズ

曜日時限

月 3時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
演習	1～	通年	2	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ビッグバンドの現場で通用するノウハウの伝授。基本的奏法や合奏時の音楽的やり取り等、アンサンブルを通して常識的な演奏を修得する術を伝える。特にリズムはポピュラー系音楽にとって大変重要。実践、体験しながら、まずは勘に頼らない正しいリズムを身につける。管楽器にとって大命題であるピッチの感覚的な掴み方の常識化。音楽的アンサンブルはもちろん、大集団の中での自己表現、リーダーシップ、そして協調性の大切さをも掴み感じとれるプレイヤーを目指す。前期、後期それぞれに学内にて授業成果発表会を行う。

学修成果

リズムやピッチ等、基本的部分の強化により、プロとしてのスタートラインに立てる実力と勇気が身に付く。一人だけでは得られない団結の音世界の魅力。そして社会の一端が体験出来る。自分にはない考え方、演奏スタイルから新しいものを吸収、発見。一人でも音楽は出来るが、みんなで演るともっと楽しい！と感じられれば、演奏家としてのみならず、社会に出てからの適合性にも繋がる。

授業展開と内容

- 第1回 まずはベイシーサウンドから「Switch in Time」（アレンジャーSammy Nestico）大まかな枠組みを考察。それぞれの役割を把握。簡単なプレ演奏。
- 第2回 サミーネティスコを十分に味わう「The Heat's On」（アレンジャーSammy Nestico）大まかな枠組みを考察。それぞれの役割を把握。簡単なプレ演奏。
- 第3回 編曲の妙「Samantha」（アレンジャーSammy Nestico）。基本奏法のチェック。
- 第4回 小気味の良いスイング感を養う「Tall Cotton」（アレンジャーSammy Nestico）。またリズム楽曲を使っのリズムトレーニング。基本奏法のチェック。
- 第5回 バラード演奏「Lil Darlin」（アレンジャーNeal Hefti）。基本奏法のチェック。
- 第6回 ベイシーバンドの代表曲に触れる「Shiny Stockings」（アレンジャーFrank Foster）。基本奏法のチェック。
- 第7回 サドジョーンズのベイシーバンド「Quiet Lady」（アレンジャーThad Jones）。基本奏法のチェック。
- 第8回 エリントンの世界へ「In A Mellow Tone」。基本奏法のチェック。
- 第9回 天オストレイホーンを楽しむ「Take the "A" Train」（アレンジャーAlan Bayrock）。基本奏法のチェック。
- 第10回 ガーシュインとその時代「STRIKE UP THE BAND」。ピッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第11回 コールポーターの二面性その1「Love for Sale」。ピッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第12回 コールポーターの二面性その2「You'd be So Nice to Come Home To」（アレンジャーGerorge Stone）。基本奏法のチェック。楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第13回 ミディアムブルースをスイングさせる「Moten Swing」（アレンジャーErnie Wilkins）。楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第14回 ベニーゴルソンサウンドを身につける「WHISPER NOT」（アレンジャーMichael Abene）。簡単なレコーディングを実践。客観性を養う。
- 第15回 まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。演奏会形式で演奏し簡単なレコーディング。客観性を養う。
- 第16回 速いテンポをゆったりスイングさせる「Big Dipper」（アレンジャーThad Jones）楽曲を使っのより実践的リズムトレーニング。
- 第17回 トミー・ドーシー楽団テーマ「I'm getting sentimental over you」。楽曲を使っのより実践的リズムトレーニング。
- 第18回 休符でスイングする！「Cute」（アレンジャーNeal Hefti）。楽曲を使っのより実践的リズムトレーニング。
- 第19回 モダンとの架け橋ベニーカーター「Easy Money」（アレンジャーBenny Carter）。ピッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。再び関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第20回 ネティスコは折に触れ「Lonely Street」（アレンジャーSammy Nestico）。ピッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。再び関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第21回 グッドオールドアメリカンソング「On the sunny side of the street」（アレンジャーJohn Clayton）様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第22回 定番中の定番をおさえておく「Queen Bee,The」（アレンジャーSammy Nestico）。様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第23回 ネティスコを叩き込む「Fun Time」（アレンジャーSammy Nestico）。様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第24回 ネティスコを叩き込む。再度「Lonely Street」（アレンジャーSammy Nestico）。様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第25回 ベニー・グッドマン楽団テーマ曲「let's dance」。様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第26回 レス・ブラウン・オーケストラのテーマ「sentimental journey」。様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。

- 第27回 愉悦としてのネティスコ 再度「Fun Time」(アレンジャーSammy Nestico)。まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。簡単なレコーディング。
- 第28回 グレン・ミラー楽団テーマ「Moonlight Serenade」まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。簡単なレコーディング。
- 第29回 最大のヒット曲を押さえる「sing, sing, sing」。まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。簡単なレコーディング。
- 第30回 まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。演奏会形式で演奏し簡単なレコーディング。客観性を養う。

履修上の注意

授業を欠席するとそのパートに欠員が出来、他の方々にたいへん迷惑が掛かります。欠席しないようにしましょう。授業時間内によく演奏出来ない曲があったら、楽譜を持ち帰りしっかり復習すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業で演奏する曲を各自が復習し、CD・映像等で他のプレイヤーの演奏を研究し、演奏能力・アンサンブル能力をレベルアップさせておくこと。各自の演奏に毎授業必ずフィードバックを行います。毎授業に臨むにあたり、1時間の自学修を必要とします。

教科書・参考書

こちらで楽譜を用意します。

科目名－クラス名

ジャズアンサンブルⅠ①

ジャズ

曜日時限

担当教員

月 3時限

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
演習	1～	通年	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ビッグバンドの現場で通用するノウハウの伝授。基本的奏法や合奏時の音楽的やり取り等、アンサンブルを通して常識的な演奏を修得する術を伝える。特にリズムはポピュラー系音楽にとって大変重要。実践、体験しながら、まずは勘に頼らない正しいリズムを身につける。管楽器にとって大命題であるピッチの感覚的な掴み方の常識化。音楽的アンサンブルはもちろん、大集団の中での自己表現、リーダーシップ、そして協調性の大切さをも掴み感じとれるプレイヤーを目指す。前期、後期それぞれに学内にて授業成果発表会を行う。

学修成果

リズムやピッチ等、基本的部分の強化により、プロとしてのスタートラインに立てる実力と勇気が身に付く。一人だけでは得られない団結の音世界の魅力。そして社会の一端が体験出来る。自分にはない考え方、演奏スタイルから新しいものを吸収、発見。一人でも音楽は出来るが、みんなで演るともっと楽しい！と感じられれば、演奏家としてのみならず、社会に出てからの適合性にも繋がる。

授業展開と内容

- 第1回 まずはベイシーサウンドから「Switch in Time」(アレンジャーSammy Nestico) 大まかな枠組みを考察。それぞれの役割を把握。簡単なプレ演奏。
- 第2回 サミーネティスコを十分に味わう「The Heat's On」(アレンジャーSammy Nestico) 大まかな枠組みを考察。それぞれの役割を把握。簡単なプレ演奏。
- 第3回 編曲の妙「Samantha」(アレンジャーSammy Nestico)。基本奏法のチェック。
- 第4回 小気味の良いスイング感を養う「Tall Cotton」(アレンジャーSammy Nestico)。またリズム楽曲を使っのリズムトレーニング。基本奏法のチェック。
- 第5回 バラード演奏「Lil Darlin」(アレンジャーNeal Hefti)。基本奏法のチェック。
- 第6回 ベイシーバンドの代表曲に触れる「Shiny Stockings」(アレンジャーFrank Foster)。基本奏法のチェック。
- 第7回 サドジョーンズのベイシーバンド「Quiet Lady」(アレンジャーThad Jones)。基本奏法のチェック。
- 第8回 エリントンの世界へ「In A Mellow Tone」。基本奏法のチェック。
- 第9回 天オストレイホーンを楽しむ「Take the "A" Train」(アレンジャーAlan Bayrock)。基本奏法のチェック。
- 第10回 ガーシュインとその時代「STRIKE UP THE BAND」。ピッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第11回 コールポーターの二面性その1「Love for Sale」。ピッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第12回 コールポーターの二面性その2「You'd be So Nice to Come Home To」(アレンジャーGeorge Stone)。基本奏法のチェック。楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第13回 ミディアムブルースをスイングさせる「Moten Swing」(アレンジャーErnie Wilkins)。楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第14回 ベニーゴルソンサウンドを身につける「WHISPER NOT」(アレンジャーMichael Abene)。簡単なレコーディングを実践。客観性を養う。
- 第15回 まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。演奏会形式で演奏し簡単なレコーディング。客観性を養う。
- 第16回 速いテンポをゆったりスイングさせる「Big Dipper」(アレンジャーThad Jones) 楽曲を使っのより実践的リズムトレーニング。
- 第17回 トミー・ドーシー楽団テーマ「I'm getting sentimental over you」。楽曲を使っのより実践的リズムトレーニング。
- 第18回 休符でスイングする!「Cute」(アレンジャーNeal Hefti)。楽曲を使っのより実践的リズムトレーニング。
- 第19回 モダンとの架け橋ベニーカーター「Easy Money」(アレンジャーBenny Carter)。ピッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。再び関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第20回 ネティスコは折に触れ「Lonely Street」(アレンジャーSammy Nestico)。ピッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。再び関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第21回 グッドオールドアメリカンソング「On the sunny side of the street」(アレンジャーJohn Clayton) 様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第22回 定番中の定番をおさえておく「Queen Bee,The」(アレンジャーSammy Nestico)。様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第23回 ネティスコを叩き込む「Fun Time」(アレンジャーSammy Nestico)。様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第24回 ネティスコを叩き込む。再度「Lonely Street」(アレンジャーSammy Nestico)。様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第25回 ベニー・グッドマン楽団テーマ曲「let's dance」。様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第26回 レス・ブラウン・オーケストラのテーマ「sentimental journey」。様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。

- 第27回 愉悦としてのネティスコ 再度「Fun Time」(アレンジャーSammy Nestico)。まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。簡単なレコーディング。
- 第28回 グレン・ミラー楽団テーマ「Moonlight Serenade」まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。簡単なレコーディング。
- 第29回 最大のヒット曲を押さえる「sing, sing, sing」。まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。簡単なレコーディング。
- 第30回 まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。演奏会形式で演奏し簡単なレコーディング。客観性を養う。

履修上の注意

授業を欠席するとそのパートに欠員が出来、他の方々にたいへん迷惑が掛かります。欠席しないようにしましょう。授業時間内によく演奏出来ない曲があったら、楽譜を持ち帰りしっかり復習すること。

授業外学修の指示/課題に対するフィードバックの方法

授業で演奏する曲を各自が復習し、CD・映像等で他のプレイヤーの演奏を研究し、演奏能力・アンサンブル能力をレベルアップさせておくこと。各自の演奏に毎授業必ずフィードバックを行います。毎授業に臨むにあたり、1時間の自学修を必要とします。

教科書・参考書

こちらで楽譜を用意します。

科目名－クラス名

ジャズアンサンブルⅠ②

ジャズ

曜日時限

月 3時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
演習	2～	通年	2	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

①で学修した内容をさらに深める。ビッグバンドの現場で通用するノウハウの伝授。基本的奏法や合奏時の音楽的やり取り等、アンサンブルを通して常識的な演奏を修得する術を伝える。特にリズムはポピュラー系音楽にとって大変重要。実践、体験しながら、まずは勘に頼らない正しいリズムを身につける。管楽器にとって大命題であるピッチの感覚的な掴み方の常識化。音楽的アンサンブルはもちろん、大集団の中での自己表現、リーダーシップ、そして協調性の大切さをも掴み感じとれるプレイヤーを目指す。前期、後期それぞれに学内にて授業成果発表会を行う。

学修成果

リズムやピッチ等、基本的部分の強化により、プロとしてのスタートラインに立てる実力と勇気が身に付く。一人だけでは得られない団結の音世界の魅力。そして社会の一端が体験出来る。自分にはない考え方、演奏スタイルから新しいものを吸収、発見。一人でも音楽は出来るが、みんなで演るともっと楽しい！と感じられれば、演奏家としてのみならず、社会に出てからの適合性にも繋がる。

授業展開と内容

- 第1回 まずはベイシーサウンドから「Switch in Time」（アレンジャーSammy Nestico）大まかな枠組みを考察。それぞれの役割を把握。簡単なプレ演奏。
- 第2回 サミーネティスコを十分に味わう「The Heat's On」（アレンジャーSammy Nestico）大まかな枠組みを考察。それぞれの役割を把握。簡単なプレ演奏。
- 第3回 編曲の妙「Samantha」（アレンジャーSammy Nestico）。基本奏法のチェック。
- 第4回 小気味の良いスイング感を養う「Tall Cotton」（アレンジャーSammy Nestico）。またリズム楽曲を使っのリズムトレーニング。基本奏法のチェック。
- 第5回 バラード演奏「Lil Darlin」（アレンジャーNeal Hefti）。基本奏法のチェック。
- 第6回 ベイシーバンドの代表曲に触れる「Shiny Stockings」（アレンジャーFrank Foster）。基本奏法のチェック。
- 第7回 サドジョーンズのベイシーバンド「Quiet Lady」（アレンジャーThad Jones）。基本奏法のチェック。
- 第8回 エリントンの世界へ「In A Mellow Tone」。基本奏法のチェック。
- 第9回 天オストレイホーンを楽しむ「Take the "A" Train」（アレンジャーAlan Bayrock）。基本奏法のチェック。
- 第10回 ガーシュインとその時代「STRIKE UP THE BAND」。ピッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第11回 コールポーターの二面性その1「Love for Sale」。ピッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第12回 コールポーターの二面性その2「You'd be So Nice to Come Home To」（アレンジャーGeorge Stone）。基本奏法のチェック。楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第13回 ミディアムブルースをスイングさせる「Moten Swing」（アレンジャーErnie Wilkins）。楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第14回 ベニーゴルソンサウンドを身につける「WHISPER NOT」（アレンジャーMichael Abene）。簡単なレコーディングを実践。客観性を養う。
- 第15回 まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。演奏会形式で演奏し簡単なレコーディング。客観性を養う。
- 第16回 速いテンポをゆったりスイングさせる「Big Dipper」（アレンジャーThad Jones）楽曲を使っのより実践的リズムトレーニング。
- 第17回 トミー・ドーシー楽団テーマ「I'm getting sentimental over you」。楽曲を使っのより実践的リズムトレーニング。
- 第18回 休符でスイングする！「Cute」（アレンジャーNeal Hefti）。楽曲を使っのより実践的リズムトレーニング。
- 第19回 モダンとの架け橋ベニーカーター「Easy Money」（アレンジャーBenny Carter）。ピッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。再び関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第20回 ネティスコは折に触れ「Lonely Street」（アレンジャーSammy Nestico）。ピッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。再び関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第21回 グッドオールドアメリカンソング「On the sunny side of the street」（アレンジャーJohn Clayton）様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第22回 定番中の定番をおさえておく「Queen Bee,The」（アレンジャーSammy Nestico）。様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第23回 ネティスコを叩き込む「Fun Time」（アレンジャーSammy Nestico）。様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第24回 ネティスコを叩き込む。再度「Lonely Street」（アレンジャーSammy Nestico）。様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第25回 ベニー・グッドマン楽団テーマ曲「let's dance」。様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第26回 レス・ブラウン・オーケストラのテーマ「sentimental journey」。様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。

- 第27回 愉悦としてのネティスコ 再度「Fun Time」(アレンジャーSammy Nestico)。まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。簡単なレコーディング。
- 第28回 グレン・ミラー楽団テーマ「Moonlight Serenade」まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。簡単なレコーディング。
- 第29回 最大のヒット曲を押さえる「sing, sing, sing」。まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。簡単なレコーディング。
- 第30回 まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。演奏会形式で演奏し簡単なレコーディング。客観性を養う。

履修上の注意

授業を欠席するとそのパートに欠員が出来、他の方々にたいへん迷惑が掛かります。欠席しないようにしましょう。授業時間内によく演奏出来ない曲があったら、楽譜を持ち帰りしっかり復習すること。

授業外学修の指示/課題に対するフィードバックの方法

授業で演奏する曲を各自が復習し、CD・映像等で他のプレイヤーの演奏を研究し、演奏能力・アンサンブル能力をレベルアップさせておくこと。各自の演奏に毎授業必ずフィードバックを行います。毎授業に臨むにあたり、1時間の自学修を必要とします。

教科書・参考書

こちらで楽譜を用意します。

科目名－クラス名

ジャズアンサンブルⅠ②

ジャズ

曜日時限

担当教員

月 3時限

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
演習	2～	通年	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				100	0	0	0	0	

教育到達目標と概要

①で学修した内容をさらに深める。ビッグバンドの現場で通用するノウハウの伝授。基本的奏法や合奏時の音楽的やり取り等、アンサンブルを通して常識的な演奏を修得する術を伝える。特にリズムはポピュラー系音楽にとって大変重要。実践、体験しながら、まずは勘に頼らない正しいリズムを身につける。管楽器にとって大命題であるピッチの感覚的な掴み方の常識化。音楽的アンサンブルはもちろん、大集団の中での自己表現、リーダーシップ、そして協調性の大切さをも掴み感じとれるプレイヤーを目指す。前期、後期それぞれに学内にて授業成果発表会を行う

学修成果

リズムやピッチ等、基本的部分の強化により、プロとしてのスタートラインに立てる実力と勇気が身に付く。一人だけでは得られない団結の音世界の魅力。そして社会の一端が体験出来る。自分にはない考え方、演奏スタイルから新しいものを吸収、発見。一人でも音楽は出来るが、みんなで演るともっと楽しい！と感じられれば、演奏家としてのみならず、社会に出てからの適合性にも繋がる。

授業展開と内容

- 第1回 まずはベイシーサウンドから「Switch in Time」(アレンジャーSammy Nestico) 大まかな枠組みを考察。それぞれの役割を把握。簡単なプレ演奏。
- 第2回 サミーネティスコを十分に味わう「The Heat's On」(アレンジャーSammy Nestico) 大まかな枠組みを考察。それぞれの役割を把握。簡単なプレ演奏。
- 第3回 編曲の妙「Samantha」(アレンジャーSammy Nestico)。基本奏法のチェック。
- 第4回 小気味の良いスイング感を養う「Tall Cotton」(アレンジャーSammy Nestico)。またリズム楽曲を使っのリズムトレーニング。基本奏法のチェック。
- 第5回 バラード演奏「Lil Darlin」(アレンジャーNeal Hefti)。基本奏法のチェック。
- 第6回 ベイシーバンドの代表曲に触れる「Shiny Stockings」(アレンジャーFrank Foster)。基本奏法のチェック。
- 第7回 サドジョーンズのベイシーバンド「Quiet Lady」(アレンジャーThad Jones)。基本奏法のチェック。
- 第8回 エリントンの世界へ「In A Mellow Tone」。基本奏法のチェック。
- 第9回 天オストレイホーンを楽しむ「Take the "A" Train」(アレンジャーAlan Bayrock)。基本奏法のチェック。
- 第10回 ガーシュインとその時代「STRIKE UP THE BAND」。ピッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第11回 コールポーターの二面性その1「Love for Sale」。ピッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第12回 コールポーターの二面性その2「You'd be So Nice to Come Home To」(アレンジャーGeorge Stone)。基本奏法のチェック。楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第13回 ミディアムブルースをスイングさせる「Moten Swing」(アレンジャーErnie Wilkins)。楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第14回 ベニーゴルソンサウンドを身につける「WHISPER NOT」(アレンジャーMichael Abene)。簡単なレコーディングを実践。客観性を養う。
- 第15回 まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。演奏会形式で演奏し簡単なレコーディング。客観性を養う。
- 第16回 速いテンポをゆったりスイングさせる「Big Dipper」(アレンジャーThad Jones) 楽曲を使っのより実践的リズムトレーニング。
- 第17回 トミー・ドーシー楽団テーマ「I'm getting sentimental over you」。楽曲を使っのより実践的リズムトレーニング。
- 第18回 休符でスイングする!「Cute」(アレンジャーNeal Hefti)。楽曲を使っのより実践的リズムトレーニング。
- 第19回 モダンとの架け橋ベニーカーター「Easy Money」(アレンジャーBenny Carter)。ピッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。再び関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第20回 ネティスコは折に触れ「Lonely Street」(アレンジャーSammy Nestico)。ピッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。再び関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第21回 グッドオールドアメリカンソング「On the sunny side of the street」(アレンジャーJohn Clayton) 様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第22回 定番中の定番をおさえておく「Queen Bee,The」(アレンジャーSammy Nestico)。様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第23回 ネティスコを叩き込む「Fun Time」(アレンジャーSammy Nestico)。様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第24回 ネティスコを叩き込む。再度「Lonely Street」(アレンジャーSammy Nestico)。様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第25回 ベニー・グッドマン楽団テーマ曲「let's dance」。様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第26回 レス・ブラウン・オーケストラのテーマ「sentimental journey」。様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。

- 第27回 愉悦としてのネティスコ 再度「Fun Time」(アレンジャーSammy Nestico)。まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。簡単なレコーディング。
- 第28回 グレン・ミラー楽団テーマ「Moonlight Serenade」まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。簡単なレコーディング。
- 第29回 最大のヒット曲を押さえる「sing, sing, sing」。まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。簡単なレコーディング。
- 第30回 まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。演奏会形式で演奏し簡単なレコーディング。客観性を養う。

履修上の注意

授業を欠席するとそのパートに欠員が出来、他の方々にたいへん迷惑が掛かります。欠席しないようにしましょう。授業時間内によく演奏出来ない曲があったら、楽譜を持ち帰りしっかり復習すること。

授業外学修の指示/課題に対するフィードバックの方法

授業で演奏する曲を各自が復習し、CD・映像等で他のプレイヤーの演奏を研究し、演奏能力・アンサンブル能力をレベルアップさせておくこと。各自の演奏に毎授業必ずフィードバックを行います。毎授業に臨むにあたり、1時間の自学修を必要とします。

教科書・参考書

こちらで楽譜を用意します。

科目名－クラス名

ジャズアンサンブルⅠ③

ジャズ

曜日時限

月 4時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
演習	3～	通年	2	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

①②で学んだことを発展させ、プロの現場でも通用するノウハウを伝授。基本的奏法や合奏時の音楽的やり取り等をブラッシュアップし、更に難しい楽曲、近代のアレンジ物にも挑戦する。リズム的、ハーモニー的にも複雑な曲に対応するテクニックを学び、音楽的アンサンブルはもちろん、大集団の中での自己表現、リーダーシップ、そして協調性の大切さをも掴み感じとれるプレイヤーを目指す。前期、後期にそれぞれ学内にて授業成果発表会を行う。

学修成果

更なる知識、基本的奏法の強化により、プロとして通用する実力と勇気が身に付く。一人だけでは得られない団結の音世界の魅力、そして社会の一端を体験し、自分にはない考え方、演奏スタイルから新しいものを吸収、発見する。一人でも音楽は出来るが、みんなで演るともっと楽しい！と感じられれば、演奏家としてのみならず、社会に出てからの適合性にも繋がる。

授業展開と内容

- 第1回 ガイダンス、ネティスコブラッシュアップ「Freckle Face」（アレンジャーSammy Nestico）大まかな枠組みを考察。それぞれの役割を把握。簡単なブレ演奏。
- 第2回 ネティスコブラッシュアップその2「Freckle Face」（アレンジャーSammy Nestico）大まかな枠組みを考察。それぞれの役割を把握。簡単なブレ演奏。
- 第3回 ネティスコブラッシュアップその3「Lonely street」（アレンジャーSammy Nestico）大まかな枠組みを考察。それぞれの役割を把握。簡単なブレ演奏。
- 第4回 カウント・ベイシー楽団テーマ曲「One o'clock jump」リズム楽曲を使ってのリズムトレーニング。基本奏法のチェック。
- 第5回 ネティスコは折に触れて「Lonely street」（アレンジャーSammy Nestico）大まかな枠組みを考察。それぞれの役割を把握。簡単なブレ演奏。
- 第6回 ジャズワルツを味わう「Waltz Of The Flowers」（アレンジャーBill Liston）リズム楽曲を使ってのリズムトレーニング。基本奏法のチェック。
- 第7回 込み入った編曲の体験「Willowcrest」（アレンジャーBob Florence）リズム楽曲を使ってのリズムトレーニング。基本奏法のチェック。
- 第8回 あくまでスイング「Ya Gotta Try」（アレンジャーBill Liston）リズム楽曲を使ってのリズムトレーニング。基本奏法のチェック。
- 第9回 キューバンラテン「mistrada」リズム楽曲を使ってのリズムトレーニング。基本奏法のチェック。
- 第10回 オリバーネルソンサウンドの体感「Blues and the Abstract Truth」（アレンジャーOliver Nelson）ピッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第11回 ファンキーフィーリング「JAZZ POLICE」（アレンジャーGordon Goodwin）ピッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第12回 コンテンポラリーサウンド体験「And that's that」（アレンジャーdennis mackrel）楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第13回 ロックビートのフルバンド「discomotion」（アレンジャーfrank foster）楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第14回 主観としての作曲、客観としての編曲。志望制で学生のオリジナル作品を扱う。簡単なレコーディングを実践。客観性を養う。
- 第15回 まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。演奏会形式で演奏し簡単なレコーディング。客観性を養う。
- 第16回 ブラジリアンラテン「above horizons」。楽曲を使ってのより実践的リズムトレーニング。
- 第17回 管楽器群相互のレイション「willowcrest」（アレンジャーbob florence）。ピッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。再び関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第18回 ギル、ジャコの系譜「computer」。楽曲を使ってのより実践的リズムトレーニング。
- 第19回 立奏などステージパフォーマンス「fancy pants」（アレンジャーSammy Nestico）ピッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第20回 アップテンポのめまぐるしいスイング「swingin' on a star」ピッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第21回 日本の誇る作編曲家「Long Yellow Road」（Toshiko Akiyoshi）様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第22回 ビバップ体験 be bop charlie（アレンジャーbob froence）様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第23回 授業から生まれる新作！志望制、学生のオリジナル曲または講師の曲を演奏してみる。様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第24回 大編成で難しいボサノバ「WAVE」様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第25回 ビバップバラード「GOODBYE PORK PIE HAT」様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第26回 モンクのユニークワールド「ROUND MIDNIGHT」様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第27回 パットメセニーのコンテンポラリー「Have You Heard」様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。

第28回 複合リズム 「Pinnoccio」(本田雅人) 様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。

第29回 フュージョン難解曲に挑戦! 「Condrence」まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。簡単なレコーディング。

第30回 まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。演奏会形式で演奏し簡単なレコーディング。客観性を養う。

履修上の注意

授業を欠席するとそのパートに欠員が出来、他の方々にたいへん迷惑が掛かります。欠席しないようにしましょう。授業時間内によく演奏出来ない曲があったら、楽譜を持ち帰りしっかり復習すること。

授業外学修の指示/課題に対するフィードバックの方法

授業で演奏する曲を各自が復習し、CD・映像等で他のプレイヤーの演奏を研究し、演奏能力・アンサンブル能力をレベルアップさせておくこと。各自の演奏に毎授業必ずフィードバックを行います。毎授業に臨むにあたり、1時間の自学修を必要とします。

教科書・参考書

こちらで楽譜を用意します。

科目名－クラス名

ジャズアンサンブルⅠ④

ジャズ

曜日時限

月 4時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
演習	4～	通年	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

①②③で学んだことの発展。プロの現場で通用するノウハウの伝授。基本的奏法や合奏時の音楽的やり取り等をブラッシュアップし、更に難しい楽曲、近代のアレンジ物にも挑戦する。リズム的、ハーモニー的にも複雑な曲に対応するテクニックを学び、音楽的アンサンブルはもちろん、大集団の中での自己表現、リーダーシップ、そして協調性の大切さをも掴み感じとれるプレイヤーを目指す。前期、後期にそれぞれ学内にて授業成果発表会を行う。

学修成果

リズムやビッチ等、基本的部分の強化により、プロとしてのスタートラインに立てる実力と勇気が身に付く。一人だけでは得られない団結の音世界の魅力。そして社会の一端が体験出来る。自分にはない考え方、演奏スタイルから新しいものを吸収、発見。一人でも音楽は出来るが、みんなで演るともっと楽しい！と感じられれば、演奏家としてのみならず、社会に出てからの適合性にも繋がる。

授業展開と内容

- 第1回 ガイダンス、ネティスコブラッシュアップ「Freckle Face」（アレンジャーSammy Nestico）大まかな枠組みを考察。それぞれの役割を把握。簡単なブレ演奏。
- 第2回 ネティスコブラッシュアップその2「Freckle Face」（アレンジャーSammy Nestico）大まかな枠組みを考察。それぞれの役割を把握。簡単なブレ演奏。
- 第3回 ネティスコブラッシュアップその3「Lonely street」（アレンジャーSammy Nestico）大まかな枠組みを考察。それぞれの役割を把握。簡単なブレ演奏。
- 第4回 カウント・ベイシー楽団テーマ曲「One o'clock jump」リズム楽曲を使ってのリズムトレーニング。基本奏法のチェック。
- 第5回 ネティスコは折に触れて「Lonely street」（アレンジャーSammy Nestico）大まかな枠組みを考察。それぞれの役割を把握。簡単なブレ演奏。
- 第6回 ジャズワルツを味わう「Waltz Of The Flowers」（アレンジャーBill Liston）リズム楽曲を使ってのリズムトレーニング。基本奏法のチェック。
- 第7回 込み入った編曲の体験「Willowcrest」（アレンジャーBob Florence）リズム楽曲を使ってのリズムトレーニング。基本奏法のチェック。
- 第8回 あくまでスイング「Ya Gotta Try」（アレンジャーBill Liston）リズム楽曲を使ってのリズムトレーニング。基本奏法のチェック。
- 第9回 キューバンラテン「mistrada」リズム楽曲を使ってのリズムトレーニング。基本奏法のチェック。
- 第10回 オリバーネルソンサウンドの体感「Blues and the Abstract Truth」（アレンジャーOliver Nelson）ビッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第11回 ファンキーフィーリング「JAZZ POLICE」（アレンジャーGordon Goodwin）ビッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第12回 コンテンポラリーサウンド体験「And that's that」（アレンジャーdennis mackrel）楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第13回 ロックビートのフルバンド「discomotion」（アレンジャーfrank foster）楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第14回 主観としての作曲、客観としての編曲。志望制で学生のオリジナル作品を扱う。簡単なレコーディングを实践。客観性を養う。
- 第15回 まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。演奏会形式で演奏し簡単なレコーディング。客観性を養う。
- 第16回 ブラジリアンラテン「above horizons」。楽曲を使ってのより実践的リズムトレーニング。
- 第17回 管楽器群相互のレイション「willowcrest」（アレンジャーbob florence）。ビッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。再び関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第18回 ギル、ジャコの系譜「computer」。楽曲を使ってのより実践的リズムトレーニング。
- 第19回 立奏などステージパフォーマンス「fancy pants」（アレンジャーSammy Nestico）ビッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第20回 アップテンポのめまぐるしいスイング「swingin' on a star」ビッチ(管楽器)自分自身で音程を創る訓練。関係性(リズム楽器)各楽器間の連携強化。
- 第21回 日本の誇る作編曲家「Long Yellow Road」（Toshiko Akiyoshi）様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第22回 ビバップ体験 be bop charlie（アレンジャーbob froence）様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第23回 授業から生まれる新作！志望制、学生のオリジナル曲または講師の曲を演奏してみる。様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第24回 大編成で難しいボサノバ「WAVE」様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第25回 ビバップバラード「GOODBYE PORK PIE HAT」様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第26回 モンクのユニークワールド「ROUND MIDNIGHT」様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。
- 第27回 パットメセニーのコンテンポラリー「Have You Heard」様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。

第28回 複合リズム 「Pinnocio」(本田雅人) 様々な曲を使いながら、楽曲によるスタイルの違い、演奏ノウハウを覚える。

第29回 フュージョン難解曲に挑戦! 「Condrence」まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。簡単なレコーディング。

第30回 まとめとして今まで演奏してきたレパートリを振り返り演奏。演奏会形式で演奏し簡単なレコーディング。客観性を養う。

履修上の注意

授業を欠席するとそのパートに欠員が出来、他の方々にたいへん迷惑が掛かります。欠席しないようにしましょう。授業時間内によく演奏出来ない曲があったら、楽譜を持ち帰りしっかり復習すること。

※平成27年入学生のカリキュラムでは3限と4限2コマ出席する必要があります。

授業外学修の指示/課題に対するフィードバックの方法

授業で演奏する曲を各自が復習し、CD・映像等で他のプレイヤーの演奏を研究し、演奏能力・アンサンブル能力をレベルアップさせておくこと。各自の演奏に毎授業必ずフィードバックを行います。毎授業に臨むにあたり、1時間の自学修を必要とします。

教科書・参考書

こちらで楽譜を用意します。

科目名－クラス名

ジャズアンサンブルⅡ①

曜日時限

木 2時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	1～	通年	0		70	0	0	30	0	100

教育到達目標と概要

様々な楽器の組み合わせによるコンボ形式アンサンブルに慣れ、多くのジャズスタンダードを覚えて行きます。特にブルースやリズムチェンジ、チャーリーパーカー物は必須。

主担当は池田雅明、岡崎好朗の両クラスがあり、前期と後期でメンバーを入れ替えます。更にジャズコースの教員全員がイレギュラーで登壇し、様々な楽器、パートの視点からも指導を行います。（講師の都合により、それぞれの登壇回数や内容が前後することもあります）

学修成果

ジャムセッションにおける必須スタンダードを暗譜し、インプロビゼーションを重ねる事により、実際の現場に落ち着いて望めるようにします。

授業展開と内容

第1回	ガイダンス（クラス分け） ブルース ①（C Jam Blues等）
第2回	ブルース ②（Billies Bounce、Au Privave等）
第3回	ブルース ③（Blue Monk、Five spot after dark等）
第4回	デキシー系（聖者の行進等）
第5回	リズムチェンジ系 ①（I got rhythm等）
第6回	リズムチェンジ系 ②（Peridido等）
第7回	スイング系 ①（Take the A Train等）
第8回	スイング系 ②（Satin Doll等）
第9回	スイング系 ③（Mood Indigo等）
第10回	ヴォーカル系 ①（All of me等）
第11回	ヴォーカル系 ②（Days of wine and roses等）
第12回	ヴォーカル系 ③（How high the moon等）
第13回	チャーリーパーカー系 ①（Confirmation、Donna lee等）
第14回	チャーリーパーカー系 ②（Anthropology等）
第15回	モダン系 ①（Blue Bossa等）
第16回	ガイダンス モダン系 ②（Summer time等）
第17回	モダン系 ③（Autumn leaves等）
第18回	モダン系 ④（Bye Bye blackbird等）
第19回	モダン系 ⑤（Stella by starlight等）
第20回	モダン系 ⑥（I love you等）
第21回	モダン系 ⑦（On Green dolphin street等）
第22回	モダン系 ⑧（A night in tunisia等）
第23回	バラード系（Misty等）
第24回	ワルツ系（Someday my prince will come等）
第25回	モード系①（So What等）
第26回	モード系②（Milestones等）
第27回	ハンコック系（Watermelon Man、The sidwinder等）
第28回	ボサノバ系（The girl from ipanema、One note samba等）
第29回	ラテン系（Mambo inn、Manteca等）
第30回	コルトレーン系（Giant steps等）

履修上の注意

課題曲については授業前にYoutube等で実際の演奏を確認しておく事。授業中のコードアナライズに対して書き込める様に、プリントアウトはこちらで用意します。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

課題曲以外にも積極的にスタンダードを覚えていきましょう。毎授業の各々の演奏に対して必ずフィードバックを行います。また、毎授業ごとに1時間の自学修が必要です。

教科書・参考書

ジャズ・スタンダード・バイブル～セッションに役立つ不朽の227曲 納浩一著

科目名－クラス名

ジャズアンサンブルⅡ①

A

曜日時限

木 2時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	1～	通年	2		70	0	0	30	0	100

教育到達目標と概要

様々な楽器の組み合わせによるコンボ形式アンサンブルに慣れ、多くのジャズスタンダードを覚えて行きます。特にブルースやリズムチェンジ、チャーリーパーカー物は必須。

主担当は池田雅明、岡崎好朗の両クラスがあり、前期と後期でメンバーを入れ替えます。更にジャズコースの教員全員がイレギュラーで登壇し、様々な楽器、パートの視点からも指導を行います。（講師の都合により、それぞれの登壇回数や内容が前後することもあります）

学修成果

ジャムセッションにおける必須スタンダードを暗譜し、インプロビゼーションを重ねる事により、実際の現場に落ち着いて望めるようにします。

授業展開と内容

第1回	ガイダンス（クラス分け） ブルース ①（C Jam Blues等）
第2回	ブルース ②（Billies Bounce、Au Privave等）
第3回	ブルース ③（Blue Monk、Five spot after dark等）
第4回	デキシー系（聖者の行進等）
第5回	リズムチェンジ系 ①（I got rhythm等）
第6回	リズムチェンジ系 ②（Peridido等）
第7回	スイング系 ①（Take the A Train等）
第8回	スイング系 ②（Satin Doll等）
第9回	スイング系 ③（Mood Indigo等）
第10回	ヴォーカル系 ①（All of me等）
第11回	ヴォーカル系 ②（Days of wine and roses等）
第12回	ヴォーカル系 ③（How high the moon等）
第13回	チャーリーパーカー系 ①（Confirmation、Donna lee等）
第14回	チャーリーパーカー系 ②（Anthropology等）
第15回	モダン系 ①（Blue Bossa等）
第16回	ガイダンス モダン系 ②（Summer time等）
第17回	モダン系 ③（Autumn leaves等）
第18回	モダン系 ④（Bye Bye blackbird等）
第19回	モダン系 ⑤（Stella by starlight等）
第20回	モダン系 ⑥（I love you等）
第21回	モダン系 ⑦（On Green dolphin street等）
第22回	モダン系 ⑧（A night in tunisia等）
第23回	バラード系（Misty等）
第24回	ワルツ系（Someday my prince will come等）
第25回	モード系①（So What等）
第26回	モード系②（Milestones等）
第27回	ハンコック系（Watermelon Man、The sidwinder等）
第28回	ボサノバ系（The girl from ipanema、One note samba等）
第29回	ラテン系（Mambo inn、Manteca等）
第30回	コルトレーン系（Giant steps等）

履修上の注意

課題曲については授業前にYoutube等で実際の演奏を確認しておく事。授業中のコードアナライズに対して書き込める様に、プリントアウトはこちらで用意します。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

課題曲以外にも積極的にスタンダードを覚えていきましょう。毎授業の各々の演奏に対して必ずフィードバックを行います。また、毎授業ごとに1時間の自学修が必要です。

教科書・参考書

ジャズ・スタンダード・バイブル～セッションに役立つ不朽の227曲 納浩一著

科目名－クラス名

ジャズアンサンブルⅡ①

B

曜日時限

木 2時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	1～	通年	2		70	0	0	30	0	100

教育到達目標と概要

様々な楽器の組み合わせによるコンボ形式アンサンブルに慣れ、多くのジャズスタンダードを覚えて行きます。特にブルースやリズムチェンジ、チャーリーパーカー物は必須。

主担当は池田雅明、岡崎好朗の両クラスがあり、前期と後期でメンバーを入れ替えます。更にジャズコースの教員全員がイレギュラーで登壇し、様々な楽器、パートの視点からも指導を行います。（講師の都合により、それぞれの登壇回数や内容が前後することもあります）

学修成果

ジャムセッションにおける必須スタンダードを暗譜し、インプロビゼーションを重ねる事により、実際の現場に落ち着いて望めるようにします。

授業展開と内容

第1回	ガイダンス（クラス分け） ブルース ①（C Jam Blues等）
第2回	ブルース ②（Billies Bounce、Au Privave等）
第3回	ブルース ③（Blue Monk、Five spot after dark等）
第4回	デキシー系（聖者の行進等）
第5回	リズムチェンジ系 ①（I got rhythm等）
第6回	リズムチェンジ系 ②（Peridido等）
第7回	スイング系 ①（Take the A Train等）
第8回	スイング系 ②（Satin Doll等）
第9回	スイング系 ③（Mood Indigo等）
第10回	ヴォーカル系 ①（All of me等）
第11回	ヴォーカル系 ②（Days of wine and roses等）
第12回	ヴォーカル系 ③（How high the moon等）
第13回	チャーリーパーカー系 ①（Confirmation、Donna lee等）
第14回	チャーリーパーカー系 ②（Anthropology等）
第15回	モダン系 ①（Blue Bossa等）
第16回	ガイダンス モダン系 ②（Summer time等）
第17回	モダン系 ③（Autumn leaves等）
第18回	モダン系 ④（Bye Bye blackbird等）
第19回	モダン系 ⑤（Stella by starlight等）
第20回	モダン系 ⑥（I love you等）
第21回	モダン系 ⑦（On Green dolphin street等）
第22回	モダン系 ⑧（A night in tunisia等）
第23回	バラード系（Misty等）
第24回	ワルツ系（Someday my prince will come等）
第25回	モード系①（So What等）
第26回	モード系②（Milestones等）
第27回	ハンコック系（Watermelon Man、The sidwinder等）
第28回	ボサノバ系（The girl from ipanema、One note samba等）
第29回	ラテン系（Mambo inn、Manteca等）
第30回	コルトレーン系（Giant steps等）

履修上の注意

課題曲については授業前にYoutube等で実際の演奏を確認しておく事。授業中のコードアナライズに対して書き込める様に、プリントアウトはこちらで用意します。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

課題曲以外にも積極的にスタンダードを覚えていきましょう。毎授業の各々の演奏に対して必ずフィードバックを行います。また、毎授業ごとに1時間の自学修が必要です。

教科書・参考書

ジャズ・スタンダード・バイブル～セッションに役立つ不朽の227曲 納浩一著

科目名－クラス名

ジャズアンサンブルⅡ①

A

曜日時限

木 2時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	1～	通年	2		70	0	0	30	0	100

教育到達目標と概要

様々な楽器の組み合わせによるコンボ形式アンサンブルに慣れ、多くのジャズスタンダードを覚えて行きます。特にブルースやリズムチェンジ、チャーリーパーカー物は必須。

主担当は池田雅明、岡崎好朗の両クラスがあり、前期と後期でメンバーを入れ替えます。更にジャズコースの教員全員がイレギュラーで登壇し、様々な楽器、パートの視点からも指導を行います。（講師の都合により、それぞれの登壇回数や内容が前後することもあります）

学修成果

ジャムセッションにおける必須スタンダードを暗譜し、インプロビゼーションを重ねる事により、実際の現場に落ち着いて望めるようにします。

授業展開と内容

- 第1回 ガイダンス（クラス分け）
ブルース ①（C Jam Blues等）
- 第2回 ブルース ②（Billies Bounce、Au Privave等）
- 第3回 ブルース ③（Blue Monk、Five spot after dark等）
- 第4回 デキシー系（聖者の行進等）
- 第5回 リズムチェンジ系 ①（I got rhythm等）
- 第6回 リズムチェンジ系 ②（Peridido等）
- 第7回 スイング系 ①（Take the A Train等）
- 第8回 スイング系 ②（Satin Doll等）
- 第9回 スイング系 ③（Mood Indigo等）
- 第10回 ヴォーカル系 ①（All of me等）
- 第11回 ヴォーカル系 ②（Days of wine and roses等）
- 第12回 ヴォーカル系 ③（How high the moon等）
- 第13回 チャーリーパーカー系 ①（Confirmation、Donna lee等）
- 第14回 チャーリーパーカー系 ②（Anthropology等）
- 第15回 モダン系 ①（Blue Bossa等）
- 第16回 ガイダンス
モダン系 ②（Summer time等）
- 第17回 モダン系 ③（Autumn leaves等）
- 第18回 モダン系 ④（Bye Bye blackbird等）
- 第19回 モダン系 ⑤（Stella by starlight等）
- 第20回 モダン系 ⑥（I love you等）
- 第21回 モダン系 ⑦（On Green dolphin street等）
- 第22回 モダン系 ⑧（A night in tunisia等）
- 第23回 バラード系（Misty等）
- 第24回 ワルツ系（Someday my prince will come等）
- 第25回 モード系①（So What等）
- 第26回 モード系②（Milestones等）
- 第27回 ハンコック系（Watermelon Man、The sidwinder等）
- 第28回 ポサノバ系（The girl from ipanema、One note samba等）
- 第29回 ラテン系（Mambo inn、Manteca等）
- 第30回 コルトレーン系（Giant steps等）

履修上の注意

課題曲については授業前にYoutube等で実際の演奏を確認しておく事。授業中のコードアナライズに対して書き込める様に、プリントアウトはこちらで用意します。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

課題曲以外にも積極的にスタンダードを覚えていきましょう。毎授業の各々の演奏に対して必ずフィードバックを行います。また、毎授業ごとに1時間の自学修が必要です。

教科書・参考書

ジャズ・スタンダード・バイブル～セッションに役立つ不朽の227曲 納浩一著

科目名－クラス名

ジャズアンサンブルⅡ①

B

曜日時限

担当教員

木 2時限

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	1～	通年	2		70	0	0	30	0	100

教育到達目標と概要

様々な楽器の組み合わせによるコンボ形式アンサンブルに慣れ、多くのジャズスタンダードを覚えて行きます。特にブルースやリズムチェンジ、チャーリーパーカー物は必須。

主担当は池田雅明、岡崎好朗の両クラスがあり、前期と後期でメンバーを入れ替えます。更にジャズコースの教員全員がイレギュラーで登壇し、様々な楽器、パートの視点からも指導を行います。（講師の都合により、それぞれの登壇回数や内容が前後することもあります）

学修成果

ジャムセッションにおける必須スタンダードを暗譜し、インプロビゼーションを重ねる事により、実際の現場に落ち着いて望めるようにします。

授業展開と内容

- 第1回 ガイダンス（クラス分け）
ブルース ①（C Jam Blues等）
- 第2回 ブルース ②（Billies Bounce、Au Privave等）
- 第3回 ブルース ③（Blue Monk、Five spot after dark等）
- 第4回 デキシー系（聖者の行進等）
- 第5回 リズムチェンジ系 ①（I got rhythm等）
- 第6回 リズムチェンジ系 ②（Peridido等）
- 第7回 スイング系 ①（Take the A Train等）
- 第8回 スイング系 ②（Satin Doll等）
- 第9回 スイング系 ③（Mood Indigo等）
- 第10回 ヴォーカル系 ①（All of me等）
- 第11回 ヴォーカル系 ②（Days of wine and roses等）
- 第12回 ヴォーカル系 ③（How high the moon等）
- 第13回 チャーリーパーカー系 ①（Confirmation、Donna lee等）
- 第14回 チャーリーパーカー系 ②（Anthropology等）
- 第15回 モダン系 ①（Blue Bossa等）
- 第16回 ガイダンス
モダン系 ②（Summer time等）
- 第17回 モダン系 ③（Autumn leaves等）
- 第18回 モダン系 ④（Bye Bye blackbird等）
- 第19回 モダン系 ⑤（Stella by starlight等）
- 第20回 モダン系 ⑥（I love you等）
- 第21回 モダン系 ⑦（On Green dolphin street等）
- 第22回 モダン系 ⑧（A night in tunisia等）
- 第23回 バラード系（Misty等）
- 第24回 ワルツ系（Someday my prince will come等）
- 第25回 モード系①（So What等）
- 第26回 モード系②（Milestones等）
- 第27回 ハンコック系（Watermelon Man、The sidwinder等）
- 第28回 ポサノバ系（The girl from ipanema、One note samba等）
- 第29回 ラテン系（Mambo inn、Manteca等）
- 第30回 コルトレーン系（Giant steps等）

履修上の注意

課題曲については授業前にYoutube等で実際の演奏を確認しておく事。授業中のコードアナライズに対して書き込める様に、プリントアウトはこちらで用意します。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

課題曲以外にも積極的にスタンダードを覚えていきましょう。毎授業の各々の演奏に対して必ずフィードバックを行います。また、毎授業ごとに1時間の自学修が必要です。

教科書・参考書

ジャズ・スタンダード・バイブル～セッションに役立つ不朽の227曲 納浩一著

科目名－クラス名

ジャズアンサンブルⅡ②

A

曜日時限

木 2時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
演習	2～	通年	2	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト
				評価割合	70	0	0	30	0

教育到達目標と概要

ジャズアンサンブルⅡ①の上級編。更に多くのジャズスタンダードをセッションにより覚えていきます。インプロヴィゼーションにおけるスケールやフレーズに特化し、リズム隊においてはお決まりのイントロやエンディングの仕方も学びます。

主担当は池田雅明、岡崎好朗の両クラスがあり、前期と後期でメンバーを入れ替えます。更にジャズコースの教員全員がイレギュラーで登壇し、様々な楽器、パートの視点からも指導を行います。（講師の都合により、それぞれの登壇回数や内容が前後することもあります）

学修成果

ジャムセッションにおける必須スタンダードを暗譜し、インプロビゼーションを重ねる事により、ジャズプレイヤーに必要な共通項を覚えていきます。

授業展開と内容

第1回	ガイダンス ブルース ① (Now's the time等)
第2回	ブルース ② (Straight No Chaser、Barbados等)
第3回	ブルース ③ (Bag's Groove、Blues March等)
第4回	デキシー系 (Basin Street Blues等)
第5回	リズムチェンジ系 ① (Oleo等)
第6回	リズムチェンジ系 ② (Moose the mooche等)
第7回	スイング系 ① (On the sunny side of the street等)
第8回	スイング系 ② (It don't mean a thing等)
第9回	スイング系 ③ (Stardust等)
第10回	ヴォーカル系 ① (Fly me to the moon等)
第11回	ヴォーカル系 ② (But not for me等)
第12回	ヴォーカル系 ③ (Speak low等)
第13回	チャーリーパーカー系 ① (Ornithology等)
第14回	チャーリーパーカー系 ② (Yardbirds suite等)
第15回	モダン系 ① (There will never be another you等)
第16回	ガイダンス モダン系 ② (Alone together等)
第17回	モダン系 ③ (Just Friends等)
第18回	モダン系 ④ (Candy等)
第19回	モダン系 ⑤ (All the things you are等)
第20回	モダン系 ⑥ (Have you met miss jones等)
第21回	モダン系 ⑦ (Night & Day等)
第22回	モダン系 ⑧ (Nica's dream等)
第23回	バラード系 (Body & soul等)
第24回	ワルツ系 (My favorite things等)
第25回	モード系 ① (Impressions等)
第26回	モード系 ② (Maiden Voyage等)
第27回	ハンコック系 (Cantaloupe island、Foot Prints等)
第28回	ボサノバ系 (Wave、Desafinado等)
第29回	ラテン系 (Afro blue、Spain等)
第30回	コルトレーン系 (Moment Notice等)

履修上の注意

課題曲については授業前にYou tube等で実際の演奏を確認しておく事。授業中のコードアナライズに対して書き込める様に、プリントアウトはこちらで用意します。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

課題曲以外にも積極的にスタンダードを覚えていきましょう。毎授業の各々の演奏に対して必ずフィードバックを行います。また、毎授業ごとに1時間の自学修が必要です。

教科書・参考書

ジャズ・スタンダード・バイブル～セッションに役立つ不朽の227曲 納浩一著

科目名－クラス名

ジャズアンサンブルⅡ②

B

曜日時限

木 2時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
演習	2～	通年	2	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト
				評価割合	70	0	0	30	0

教育到達目標と概要

ジャズアンサンブルⅡ①の上級編。更に多くのジャズスタンダードをセッションにより覚えていきます。インプロヴィゼーションにおけるスケールやフレーズに特化し、リズム隊においてはお決まりのイントロやエンディングの仕方も学びます。

主担当は池田雅明、岡崎好朗の両クラスがあり、前期と後期でメンバーを入れ替えます。更にジャズコースの教員全員がイレギュラーで登壇し、様々な楽器、パートの視点からも指導を行います。（講師の都合により、それぞれの登壇回数や内容が前後することもあります）

学修成果

ジャムセッションにおける必須スタンダードを暗譜し、インプロビゼーションを重ねる事により、ジャズプレイヤーに必要な共通項を覚えていきます。

授業展開と内容

第1回 ガイダンス

ブルース ① (Now's the time等)

第2回 ブルース ② (Straight No Chaser、Barbados等)

第3回 ブルース ③ (Bag's Groove、Blues March等)

第4回 デキシー系 (Basin Street Blues等)

第5回 リズムチェンジ系 ① (Oleo等)

第6回 リズムチェンジ系 ② (Moose the mooche等)

第7回 スイング系 ① (On the sunny side of the street等)

第8回 スイング系 ② (It don't mean a thing等)

第9回 スイング系 ③ (Stardust等)

第10回 ヴォーカル系 ① (Fly me to the moon等)

第11回 ヴォーカル系 ② (But not for me等)

第12回 ヴォーカル系 ③ (Speak low等)

第13回 チャーリーパーカー系 ① (Ornithology等)

第14回 チャーリーパーカー系 ② (Yardbirds suite等)

第15回 モダン系 ① (There will never be another you等)

第16回 ガイダンス

モダン系 ② (Alone together等)

第17回 モダン系 ③ (Just Friends等)

第18回 モダン系 ④ (Candy等)

第19回 モダン系 ⑤ (All the things you are等)

第20回 モダン系 ⑥ (Have you met miss jones等)

第21回 モダン系 ⑦ (Night & Day等)

第22回 モダン系 ⑧ (Nica's dream等)

第23回 バラード系 (Body & soul等)

第24回 ワルツ系 (My favorite things等)

第25回 モード系 ① (Impressions等)

第26回 モード系 ② (Maiden Voyage等)

第27回 ハンコック系 (Cantaloupe island、Foot Prints等)

第28回 ボサノバ系 (Wave、Desafinado等)

第29回 ラテン系 (Afro blue、Spain等)

第30回 コルトレーン系 (Moment Notice等)

履修上の注意

課題曲については授業前にYou tube等で実際の演奏を確認しておく事。授業中のコードアナライズに対して書き込める様に、プリントアウトはこちらで用意します。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

課題曲以外にも積極的にスタンダードを覚えていきましょう。毎授業の各々の演奏に対して必ずフィードバックを行います。また、毎授業ごとに1時間の自学修が必要です。

教科書・参考書

ジャズ・スタンダード・バイブル～セッションに役立つ不朽の227曲 納浩一著

科目名－クラス名

ジャズアンサンブルⅡ②

A

曜日時限

木 2時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	2～	通年	2	70	0	0	30	0	100

教育到達目標と概要

ジャズアンサンブルⅡ①の上級編。更に多くのジャズスタンダードをセッションにより覚えていきます。インプロヴィゼーションにおけるスケールやフレーズに特化し、リズム隊においてはお決まりのイントロやエンディングの仕方も学びます。

主担当は池田雅明、岡崎好朗の両クラスがあり、前期と後期でメンバーを入れ替えます。更にジャズコースの教員全員がイレギュラーで登壇し、様々な楽器、パートの視点からも指導を行います。（講師の都合により、それぞれの登壇回数や内容が前後することもあります）

学修成果

ジャムセッションにおける必須スタンダードを暗譜し、インプロビゼーションを重ねる事により、ジャズプレイヤーに必要な共通項を覚えていきます。

授業展開と内容

- 第1回 ガイダンス
ブルース ① (Now's the time等)
- 第2回 ブルース ② (Straight No Chaser、Barbados等)
- 第3回 ブルース ③ (Bag's Groove、Blues March等)
- 第4回 デキシー系 (Basin Street Blues等)
- 第5回 リズムチェンジ系 ① (Oleo等)
- 第6回 リズムチェンジ系 ② (Moose the mooche等)
- 第7回 スイング系 ① (On the sunny side of the street等)
- 第8回 スイング系 ② (It don't mean a thing等)
- 第9回 スイング系 ③ (Stardust等)
- 第10回 ヴォーカル系 ① (Fly me to the moon等)
- 第11回 ヴォーカル系 ② (But not for me等)
- 第12回 ヴォーカル系 ③ (Speak low等)
- 第13回 チャーリーパーカー系 ① (Ornithology等)
- 第14回 チャーリーパーカー系 ② (Yardbirds suite等)
- 第15回 モダン系 ① (There will never be another you等)
- 第16回 ガイダンス
モダン系 ② (Alone together等)
- 第17回 モダン系 ③ (Just Friends等)
- 第18回 モダン系 ④ (Candy等)
- 第19回 モダン系 ⑤ (All the things you are等)
- 第20回 モダン系 ⑥ (Have you met miss jones等)
- 第21回 モダン系 ⑦ (Night & Day等)
- 第22回 モダン系 ⑧ (Nica's dream等)
- 第23回 バラード系 (Body & soul等)
- 第24回 ワルツ系 (My favorite things等)
- 第25回 モード系 ① (Impressions等)
- 第26回 モード系 ② (Maiden Voyage等)
- 第27回 ハンコック系 (Cantaloupe island、Foot Prints等)
- 第28回 ボサノバ系 (Wave、Desafinado等)
- 第29回 ラテン系 (Afro blue、Spain等)
- 第30回 コルトレーン系 (Moment Notice等)

履修上の注意

課題曲については授業前にYou tube等で実際の演奏を確認しておく事。授業中のコードアナライズに対して書き込める様に、プリントアウトはこちらで用意します。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

課題曲以外にも積極的にスタンダードを覚えていきましょう。毎授業の各々の演奏に対して必ずフィードバックを行います。また、毎授業ごとに1時間の自学修が必要です。

教科書・参考書

ジャズ・スタンダード・バイブル～セッションに役立つ不朽の227曲 納浩一著

科目名－クラス名

ジャズアンサンブルⅡ②

B

曜日時限

木 2時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
演習	2～	通年	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				70	0	0	30	0	

教育到達目標と概要

ジャズアンサンブルⅡ①の上級編。更に多くのジャズスタンダードをセッションにより覚えていきます。インプロヴィゼーションにおけるスケールやフレーズに特化し、リズム隊においてはお決まりのイントロやエンディングの仕方も学びます。

主担当は池田雅明、岡崎好朗の両クラスがあり、前期と後期でメンバーを入れ替えます。更にジャズコースの教員全員がイレギュラーで登壇し、様々な楽器、パートの視点からも指導を行います。（講師の都合により、それぞれの登壇回数や内容が前後することもあります）

学修成果

ジャムセッションにおける必須スタンダードを暗譜し、インプロビゼーションを重ねる事により、ジャズプレイヤーに必要な共通項を覚えていきます。

授業展開と内容

- 第1回 ガイダンス
ブルース ① (Now's the time等)
- 第2回 ブルース ② (Straight No Chaser、Barbados等)
- 第3回 ブルース ③ (Bag's Groove、Blues March等)
- 第4回 デキシー系 (Basin Street Blues等)
- 第5回 リズムチェンジ系 ① (Oleo等)
- 第6回 リズムチェンジ系 ② (Moose the mooche等)
- 第7回 スイング系 ① (On the sunny side of the street等)
- 第8回 スイング系 ② (It don't mean a thing等)
- 第9回 スイング系 ③ (Stardust等)
- 第10回 ヴォーカル系 ① (Fly me to the moon等)
- 第11回 ヴォーカル系 ② (But not for me等)
- 第12回 ヴォーカル系 ③ (Speak low等)
- 第13回 チャーリーパーカー系 ① (Ornithology等)
- 第14回 チャーリーパーカー系 ② (Yardbirds suite等)
- 第15回 モダン系 ① (There will never be another you等)
- 第16回 ガイダンス
モダン系 ② (Alone together等)
- 第17回 モダン系 ③ (Just Friends等)
- 第18回 モダン系 ④ (Candy等)
- 第19回 モダン系 ⑤ (All the things you are等)
- 第20回 モダン系 ⑥ (Have you met miss jones等)
- 第21回 モダン系 ⑦ (Night & Day等)
- 第22回 モダン系 ⑧ (Nica's dream等)
- 第23回 バラード系 (Body & soul等)
- 第24回 ワルツ系 (My favorite things等)
- 第25回 モード系 ① (Impressions等)
- 第26回 モード系 ② (Maiden Voyage等)
- 第27回 ハンコック系 (Cantaloupe island、Foot Prints等)
- 第28回 ボサノバ系 (Wave、Desafinado等)
- 第29回 ラテン系 (Afro blue、Spain等)
- 第30回 コルトレーン系 (Moment Notice等)

履修上の注意

課題曲については授業前にYou tube等で実際の演奏を確認しておく事。授業中のコードアナライズに対して書き込める様に、プリントアウトはこちらで用意します。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

課題曲以外にも積極的にスタンダードを覚えていきましょう。毎授業の各々の演奏に対して必ずフィードバックを行います。また、毎授業ごとに1時間の自学修が必要です。

教科書・参考書

ジャズ・スタンダード・バイブル～セッションに役立つ不朽の227曲 納浩一著

科目名－クラス名

ジャズ演奏法③

トロンボーン

曜日時限

月 5時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
演習	3～	通年	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
				90	0	0	0	10	100

教育到達目標と概要

演奏法②で学修した内容を更に強化する。ジャズの歴史上、様々なバンド形態を通して使われてきたトロンボーンの内意や役割を理解し、それぞれのスタイルの模倣を試みる。実際に、名プレイヤーのフレーズを自分の耳でコピーし、分析、及び演奏をする事により、各自の音楽性に反映出来るようにする。

学修成果

①ジャズ独自の演奏法を研究、理解することにより、ジャズ独自のリズムやコード進行を理解し実際の演奏に応用できる。②楽曲教材を繰り返し演奏、アナライズすることにより、アドリブソロの基本を習得できる。③様々なジャズトロンボーン演奏における演奏法研究及び考察①のスタイルを理解する事によって、多様なジャンルの音楽に対応できる能力を得る事ができる。

授業展開と内容

第1回	ディクシー時代における演奏法研究及び考察 (Kid Oryのテイルゲイトスタイル)
第2回	ディクシー時代における演奏法実践 (Kid Oryのテイルゲイトスタイル)
第3回	スイング時代における演奏法研究及び考察 (Jack Teagarden)
第4回	スイング時代における演奏法実践 (Jack Teagarden)
第5回	スイング時代における演奏法研究及び考察 (Trummy Young)
第6回	スイング時代における演奏法実践 (Trummy Young)
第7回	スイング時代における演奏法研究及び考察 (Tommy Dorsey)
第8回	スイング時代における演奏法実践 (Tommy Dorsey)
第9回	スイングビッグバンド時代における演奏法研究及び考察 (Glenn Miller)
第10回	スイングビッグバンド時代における演奏法実践 (Glenn Miller)
第11回	スイングビッグバンド時代における演奏法研究及び考察 (Benny Goodman楽団等)
第12回	スイングビッグバンド時代における演奏法実践 (Benny Goodman楽団等)
第13回	ビッグバンド時代における演奏法研究及び考察 (Count Basie楽団)
第14回	ビッグバンド時代における演奏法実践 (Count Basie楽団)
第15回	ビッグバンド時代における演奏法研究及び考察 (Duke Ellington楽団)
第16回	ビッグバンド時代における演奏法実践 (Duke Ellington楽団)
第17回	モダン時代における演奏法研究及び考察 (Bennie Green)
第18回	モダン時代における演奏法実践 (Bennie Green)
第19回	モダン時代における演奏法研究及び考察 (J.J. Johnson)
第20回	モダン時代における演奏法実践 (J.J. Johnson)
第21回	モダン時代における演奏法研究及び考察 (Kai Winding)
第22回	モダン時代における演奏法実践 (Kai Winding)
第23回	モダン時代における演奏法研究及び考察 (Curtis Fuller)
第24回	モダン時代における演奏法実践 (Curtis Fuller)
第25回	モダン時代における演奏法研究及び考察 (Slide Hampton)
第26回	モダン時代における演奏法実践 (Slide Hampton)
第27回	モダン時代における演奏法研究及び考察 (Carl Fontana)
第28回	モダン時代における演奏法実践 (Carl Fontana)
第29回	モダン時代における演奏法研究及び考察 (Frank Rosolino)
第30回	モダン時代における演奏法実践 (Frank Rosolino)

履修上の注意

授業は筆記及び演奏実技で行うので、出来る限り適度なウォームアップをしてから授業に臨む事。五線紙は必須。練習用音源を配付する場合がありますので、各自が音源をコピー出来る音響機器を持参する事。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

スタイルに応じて、各プレイヤーの音源を耳コピーしてくる宿題を課しますので、隔週ごとの予習、提出物の準備が必要です。

教科書・参考書

必要に応じて、授業毎に配布します。

科目名－クラス名

ポピュラー作曲・編曲法①

作曲音楽デザイン指揮 A

曜日時限

火 2時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
講義	2～	通年	4	評価方法	50	0	0	0	50	100

教育到達目標と概要

作曲や編曲に必要な理論を学び、最近のJ-Popヒット曲を題材として分析し、その楽曲を構成する作編曲的技法を探る。そしてそれらの楽曲がどのような作編曲技法によって成り立っているかを探り、基本的なポピュラー楽典、コードプレグレーション、リズムコンビネーションに興味を持ってもらい、自ら分析する姿勢と基本的作編曲技法の習得を目指す。

学修成果

ポピュラー音楽のコード進行を理解し、分析力が身に付き、基本的なコード進行を組み立てることができるようになる。

授業展開と内容

第1回	基本的な楽典内容の復習 -倍音、音程-
第2回	基本的な楽典内容の復習 -調号、スケール-
第3回	基本的な楽典内容の復習 -調性、関係調-
第4回	コードネーム① -トライアド-
第5回	コードネーム② -セブンス-
第6回	小テストと解説
第7回	メジャーダイアトニックコード
第8回	マイナーダイアトニックコード
第9回	コード機能
第10回	ケーデンス
第11回	ドミナントモーション
第12回	Two-Five-One (メジャー)
第13回	Two-Five-One (マイナー)
第14回	セカンダリー・ドミナント
第15回	これまでのまとめ、楽曲分析小テスト (特徴的なTwo-Five進行のある曲)
第16回	代理コード、ドミナントセブンスの裏コード
第17回	借用和音、モーダルインターチェンジ
第18回	経過和音
第19回	循環コード
第20回	突然転調
第21回	ドミナントモーションを用いた転調
第22回	ピボットコードを用いた転調
第23回	異名同音を用いた転調
第24回	テンションコード
第25回	テンション・リゾルブ
第26回	モード
第27回	アヴェイラブル・ノート・スケール
第28回	様々なスケール
第29回	アッパー・ストラクチャー・トライアドの表記と理解
第30回	試験に向けてのまとめ

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。取り組んだ課題については必ず授業ごとにアドバイスをを行う。1回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名－クラス名

ポピュラー作曲・編曲法①

サンプルA

曜日時限

火 2時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
講義	1～	通年	4	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
				50	0	0	0	50	100

教育到達目標と概要

作曲や編曲に必要な理論を学び、最近のJ-Popヒット曲を題材として分析し、その楽曲を構成する作編曲的技法を探る。そしてそれらの楽曲がどのような作編曲技法によって成り立っているかを探り、基本的なポピュラー楽典、コードプレグレーション、リズムコンビネーションに興味を持ってもらい、自ら分析する姿勢と基本的作編曲技法の習得を目指す。

学修成果

ポピュラー音楽のコード進行を理解し、分析力が身に付き、基本的なコード進行を組み立てることができるようになる。

授業展開と内容

第1回	基本的な楽典内容の復習 -倍音、音程-
第2回	基本的な楽典内容の復習 -調号、スケール-
第3回	基本的な楽典内容の復習 -調性、関係調-
第4回	コードネーム① -トライアド-
第5回	コードネーム② -セブンス-
第6回	小テストと解説
第7回	メジャーダイアトニックコード
第8回	マイナーダイアトニックコード
第9回	コード機能
第10回	ケーデンス
第11回	ドミナントモーション
第12回	Two-Five-One (メジャー)
第13回	Two-Five-One (マイナー)
第14回	セカンダリー・ドミナント
第15回	これまでのまとめ、楽曲分析小テスト (特徴的なTwo-Five進行のある曲)
第16回	代理コード、ドミナントセブンスの裏コード
第17回	借用和音、モーダルインターチェンジ
第18回	経過和音
第19回	循環コード
第20回	突然転調
第21回	ドミナントモーションを用いた転調
第22回	ピボットコードを用いた転調
第23回	異名同音を用いた転調
第24回	テンションコード
第25回	テンション・リゾルブ
第26回	モード
第27回	アヴェイラブル・ノート・スケール
第28回	様々なスケール
第29回	アッパー・ストラクチャー・トライアドの表記と理解
第30回	試験に向けてのまとめ

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。取り組んだ課題については必ず授業ごとにアドバイスをを行う。1回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名－クラス名

ポピュラー作曲・編曲法①

デジタルA

曜日時限

火 2時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
講義	1～	通年	4	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
				50	0	0	0	50	100

教育到達目標と概要

作曲や編曲に必要な理論を学び、最近のJ-Popヒット曲を題材として分析し、その楽曲を構成する作編曲的技法を探る。そしてそれらの楽曲がどのような作編曲技法によって成り立っているかを探り、基本的なポピュラー楽典、コードプレグレーション、リズムコンビネーションに興味を持ってもらい、自ら分析する姿勢と基本的作編曲技法の習得を目指す。

学修成果

ポピュラー音楽のコード進行を理解し、分析力が身に付き、基本的なコード進行を組み立てることができるようになる。

授業展開と内容

第1回 基本的な楽典内容の復習 -倍音、音程-

第2回 基本的な楽典内容の復習 -調号、スケール-

第3回 基本的な楽典内容の復習 -調性、関係調-

第4回 コードネーム① -トライアド-

第5回 コードネーム② -セブンス-

第6回 小テストと補足

第7回 メジャーダイアトニックコード

第8回 マイナーダイアトニックコード

第9回 コード機能

第10回 ケーデンス

第11回 ドミナントモーション

第12回 Two-Five-One (メジャー)

第13回 Two-Five-One (マイナー)

第14回 セカンダリー・ドミナント

第15回 楽曲分析小テスト (特徴的なTwo-Five進行のある曲)

第16回 代理コード、ドミナントセブンスの裏コード

第17回 借用和音、モーダルインターチェンジ

第18回 経過和音

第19回 循環コード

第20回 突然転調

第21回 ドミナントモーションを用いた転調

第22回 ピボットコードを用いた転調

第23回 異名同音を用いた転調

第24回 テンションコード

第25回 テンション・リゾルブ

第26回 モード

第27回 アヴェイラブル・ノート・スケール

第28回 様々なスケール

第29回 アッパー・ストラクチャー・トライアドの表記と理解

第30回 試験準備

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。取り組んだ課題については必ず授業ごとにアドバイスをを行う。1回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名－クラス名

コードプロGRESSION（ベーシック）

ジャズポピュラーA

曜日時限

火 2時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
講義	1～	通年	4	評価割合	50	0	0	0	50	100

教育到達目標と概要

作曲や編曲に必要な理論を学び、最近のJ-Popヒット曲を題材として分析し、その楽曲を構成する作編曲的技法を探る。そしてそれらの楽曲がどのような作編曲技法によって成り立っているかを探り、基本的なポピュラー楽典、コードプロGRESSION、リズムコンビネーションに興味を持ってもらい、自ら分析する姿勢と基本的作編曲技法の習得を目指す。

学修成果

ポピュラー音楽のコード進行を理解し、分析力が身に付き、基本的なコード進行を組み立てることができるようになる。

授業展開と内容

第1回	基本的な楽典内容の復習 -倍音、音程-
第2回	基本的な楽典内容の復習 -調号、スケール-
第3回	基本的な楽典内容の復習 -調性、関係調-
第4回	コードネーム① -トライアド-
第5回	コードネーム② -セブンス-
第6回	小テストと解説
第7回	メジャーダイアトニックコード
第8回	マイナーダイアトニックコード
第9回	コード機能
第10回	ケーデンス
第11回	ドミナントモーション
第12回	Two-Five-One (メジャー)
第13回	Two-Five-One (マイナー)
第14回	セカンダリー・ドミナント
第15回	これまでのまとめ、楽曲分析小テスト（特徴的なTwo-Five進行のある曲）
第16回	代理コード、ドミナントセブンスの裏コード
第17回	借用和音、モーダルインターチェンジ
第18回	経過和音
第19回	循環コード
第20回	突然転調
第21回	ドミナントモーションを用いた転調
第22回	ピボットコードを用いた転調
第23回	異名同音を用いた転調
第24回	テンションコード
第25回	テンション・リゾルブ
第26回	モード
第27回	アヴェイラブル・ノート・スケール
第28回	様々なスケール
第29回	アッパー・ストラクチャー・トライアドの表記と理解
第30回	試験に向けてのまとめ

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。取り組んだ課題については必ず授業ごとにアドバイスをを行う。1回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名－クラス名

コードプロGRESSION（ベーシック）

ジャズポピュラーA

曜日時限

火 2時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
講義	1～	通年	4	評価種別	50	0	0	0	50	100
				評価割合						

教育到達目標と概要

作曲や編曲に必要な理論を学び、最近のJ-Popヒット曲を題材として分析し、その楽曲を構成する作編曲的技法を探る。そしてそれらの楽曲がどのような作編曲技法によって成り立っているかを探り、基本的なポピュラー楽典、コードプロGRESSION、リズムコンビネーションに興味を持ってもらい、自ら分析する姿勢と基本的作編曲技法の習得を目指す。

学修成果

ポピュラー音楽のコード進行を理解し、分析力が身に付き、基本的なコード進行を組み立てることができるようになる。

授業展開と内容

第1回	基本的な楽典内容の復習 -倍音、音程-
第2回	基本的な楽典内容の復習 -調号、スケール-
第3回	基本的な楽典内容の復習 -調性、関係調-
第4回	コードネーム① -トライアド-
第5回	コードネーム② -セブンス-
第6回	小テストと解説
第7回	メジャーダイアトニックコード
第8回	マイナーダイアトニックコード
第9回	コード機能
第10回	ケーデンス
第11回	ドミナントモーション
第12回	Two-Five-One (メジャー)
第13回	Two-Five-One (マイナー)
第14回	セカンダリー・ドミナント
第15回	これまでのまとめ、楽曲分析小テスト（特徴的なTwo-Five進行のある曲）
第16回	代理コード、ドミナントセブンスの裏コード
第17回	借用和音、モーダルインターチェンジ
第18回	経過和音
第19回	循環コード
第20回	突然転調
第21回	ドミナントモーションを用いた転調
第22回	ピボットコードを用いた転調
第23回	異名同音を用いた転調
第24回	テンションコード
第25回	テンション・リゾルブ
第26回	モード
第27回	アヴェイラブル・ノート・スケール
第28回	様々なスケール
第29回	アッパー・ストラクチャー・トライアドの表記と理解
第30回	試験に向けてのまとめ

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。取り組んだ課題については必ず授業ごとにアドバイスをを行う。1回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名－クラス名

ポピュラー作曲・編曲法②

作曲音楽デザイン指揮 A

曜日時限

火 1時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	
講義	3～	通年	4	評価割合	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

ポピュラー作曲・編曲法①で学んだ内容を元に、実際の編曲を行う為の実践的項目を修得する。より高度な編曲テクニックに加え旋律／リズムの考察とイントロ・間奏・エンディングの考え方に重点を置きアレンジ作品を書く事を目指す。

学修成果

実際の編曲を行う為の実践的手法が修得できるようになる。

授業展開と内容

第1回	ポピュラー作曲・編曲法①で学んだ内容の確認
第2回	メロディーの骨格化
第3回	カウンターライン
第4回	オブリガート
第5回	フィルラー
第6回	ペダル・ポイント
第7回	クリシェ
第8回	イントロの考察
第9回	イントロの実践
第10回	インターリュードの考察
第11回	インターリュードの実践
第12回	エンディングの考察
第13回	エンディングの実践
第14回	現代的なLoopミュージックの考察
第15回	現代的なLoopミュージックの実践
第16回	楽器の特性について
第17回	記譜法、マスターリズム譜について
第18回	様々なリズム
第19回	リズムセクション編成による編曲作品の制作
第20回	リズムセクション編成によるオリジナル作品の制作
第21回	テンション・リゾルブを効果的に用いたライン
第22回	2声、3声のヴォイスング（シンプルなコーラスアレンジやマリアッチのような小編成のヴォイスング）
第23回	4way Close
第24回	ダイアトニック・アプローチ/クロマチック・アプローチ/ディミニッシュ・アプローチ
第25回	4way closeの応用、Drop2,Drop3,Drop2&4とそれらに相応しい楽器（音色）編成
第26回	移調楽器の楽器法と特徴
第27回	管楽器・弦楽器・鍵盤楽器それぞれのアーティキュレーションと相違点
第28回	ホーン・セクションを含むコンボアレンジ（R & Bや小編成Jazz Band）研究/分析
第29回	ホーン・セクションを含むコンボ編成による編曲作品の制作
第30回	ホーン・セクションを含むコンボ編成によるオリジナル作品の制作

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。提出された課題については必ず授業ごとにアドバイスを行う。1回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

■ 教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名－クラス名

ポピュラー作曲・編曲法②

サンプルA

曜日時限

火 1時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
講義	2～	通年	4	評価種別	0	0	100	0	0	100
				評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

ポピュラー作曲・編曲法①で学んだ内容を元に、実際の編曲を行う為の実践的項目を修得する。より高度な編曲テクニックに加え旋律／リズムの考察とイントロ・間奏・エンディングの考え方に重点を置きアレンジ作品を書く事を目指す。

学修成果

実際の編曲を行う為の実践的手法が修得できるようになる。

授業展開と内容

第1回	ポピュラー作曲・編曲法①で学んだ内容の確認
第2回	メロディーの骨格化
第3回	カウンターライン
第4回	オブリガート
第5回	フィラー
第6回	ペダル・ポイント
第7回	クリシェ
第8回	イントロの考察
第9回	イントロの実践
第10回	インターリュードの考察
第11回	インターリュードの実践
第12回	エンディングの考察
第13回	エンディングの実践
第14回	現代的なLoopミュージックの考察
第15回	現代的なLoopミュージックの実践
第16回	楽器の特性について
第17回	記譜法、マスターリズム譜について
第18回	様々なリズム
第19回	リズムセクション編成による編曲作品の制作
第20回	リズムセクション編成によるオリジナル作品の制作
第21回	テンション・リゾルブを効果的に用いたライン
第22回	2声、3声のヴォイスング（シンプルなコーラスアレンジやマリアッチのような小編成のヴォイスング）
第23回	4way Close
第24回	ダイアトニック・アプローチ/クロマチック・アプローチ/ディミニッシュ・アプローチ
第25回	4way closeの応用、Drop2,Drop3,Drop2&4とそれらに相応しい楽器（音色）編成
第26回	移調楽器の楽器法と特徴
第27回	管楽器・弦楽器・鍵盤楽器それぞれのアーティキュレーションと相違点
第28回	ホーン・セクションを含むコンボアレンジ（R & Bや小編成Jazz Band）研究/分析
第29回	ホーン・セクションを含むコンボ編成による編曲作品の制作
第30回	ホーン・セクションを含むコンボ編成によるオリジナル作品の制作

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。提出された課題については必ず授業ごとにアドバイスを行う。1回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

■ 教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名－クラス名

ポピュラー作曲・編曲法②

ポピュラー

曜日時限

火 4時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
講義	3～	通年	4	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト
				評価割合	0	0	100	0	0
									100

教育到達目標と概要

ポピュラー作編曲で学んだ事の仕上げとしてオーケストラ及びビッグバンド編曲を実践する。また自身において最も研究したいサウンドのスコアリングを探究する。有名アレンジャー（デイブ・グルーシン、ボブ・ジェームス、ドン・セベスキー、ドン・コスタ、クインシー・ジョーンズなど）の作品分析により編曲能力の向上を目指す。

学修成果

卒業作品として相応しいスコア制作、卒業ライブ応募曲制作、などのプロフェッショナル・レベルの作編曲作品を残すことができる。

授業展開と内容

第1回	Diana Krall (Wallflower) David Foster編曲分析①
第2回	Diana Krall (Wallflower) David Foster編曲分析②
第3回	Diana Krall (Wallflower) David Foster編曲分析③
第4回	Stringsセクション演習
第5回	Stringsセクション演習
第6回	Quincy Jones(Pops , R&B) 編曲分析①
第7回	Quincy Jones(Pops , R&B) 編曲分析②
第8回	Quincy Jones(Pops , R&B) 編曲分析③
第9回	ホーンセクション・ライティング①
第10回	ホーンセクション・ライティング②
第11回	Sadao Watanabe(How's Everything) Dave Grusin編曲スコア分析①
第12回	Sadao Watanabe(How's Everything) Dave Grusin編曲スコア分析②
第13回	Sadao Watanabe(How's Everything) Dave Grusin編曲スコア分析③
第14回	Wood Winds,Horns & Strings演習
第15回	Wood Winds,Horns & Strings演習
第16回	Bob James編曲分析①
第17回	Bob James編曲分析②
第18回	Bob James編曲分析③
第19回	Don Sebesky編曲分析①
第20回	Don Sebesky編曲分析②
第21回	Don Sebesky編曲分析③
第22回	Henry Mancini編曲分析①
第23回	Henry Mancini編曲分析②
第24回	Henry Mancini編曲分析③
第25回	Pops&Jazz Orchetraスコアの完成
第26回	Pops&Jazz Orchetraスコアの完成
第27回	Pops&Jazz Orchetraスコアの完成
第28回	卒業作品スコア完成
第29回	卒業作品スコア完成
第30回	卒業作品スコア完成

履修上の注意

筆記用具、五線ノートは必ず用意すること。必要な場合はiPhone/iPadなどのピアノ・アプリで音を確認するのも良い。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

後期に入ったら卒業ライブに備えるためにオリジナル作編曲作品を見せて欲しい。取り組んだ課題については必ず授業ごとにアドバイスをを行う。1回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

教科書・参考書

参考書/サウンズ&スコアーズ ヘンリーマンシーニ著、参考書/コンテンポラリー・アレンジャー ドン・セベスキー著、参考書/モダン・ジャズ・ヴォイスिंग Ted Pease / Ken Pullig共著、参考書/編曲と作曲法 モダン・アレンジング・テクニック Gordon Delamont著。教材譜面は授業内で配付。

科目名－クラス名

ポピュラー作曲・編曲法②

電子オルガン

曜日時限

火 4時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	
講義	2～	通年	4	評価割合	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

ポピュラー作曲・編曲法①で学んだ内容を元に、実際の編曲を行う為の実践的項目を修得する。より高度な編曲テクニックに加え旋律／リズムの考察とイントロ・間奏・エンディングの考え方に重点を置きアレンジ作品を書く事を目指す。

学修成果

実際の編曲を行う為の実践的手法が修得できるようになる。

授業展開と内容

第1回	ポピュラー作曲・編曲法①で学んだ内容の確認
第2回	メロディーの骨格化
第3回	カウンターライン
第4回	オブリガート
第5回	フィルラー
第6回	ペダル・ポイント
第7回	クリシェ
第8回	イントロの考察
第9回	イントロの実践
第10回	インターリュードの考察
第11回	インターリュードの実践
第12回	エンディングの考察
第13回	エンディングの実践
第14回	現代的なLoopミュージックの考察
第15回	現代的なLoopミュージックの実践
第16回	楽器の特性について
第17回	記譜法、マスターリズム譜について
第18回	様々なリズム
第19回	リズムセクション編成による編曲作品の制作
第20回	リズムセクション編成によるオリジナル作品の制作
第21回	テンション・リゾルブを効果的に用いたライン
第22回	2声、3声のヴォイシング（シンプルなコーラスアレンジやマリアッチのような小編成のヴォイシング）
第23回	4way Close
第24回	ダイアトニック・アプローチ/クロマチック・アプローチ/ディミニッシュ・アプローチ
第25回	4way closeの応用、Drop2,Drop3,Drop2&4とそれらに相応しい楽器（音色）編成
第26回	移調楽器の楽器法と特徴
第27回	管楽器・弦楽器・鍵盤楽器それぞれのアーティキュレーションと相違点
第28回	ホーン・セクションを含むコンポアレンジ（R & Bや小編成Jazz Band）研究/分析
第29回	ホーン・セクションを含むコンポ編成による編曲作品の制作
第30回	ホーン・セクションを含むコンポ編成によるオリジナル作品の制作

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。提出された課題については必ず授業ごとにアドバイスを行う。1回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

■ 教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名－クラス名

ポピュラー作曲・編曲法②

デジタルA

曜日時限

火 1時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	
講義	2～	通年	4	評価割合	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

ポピュラー作曲・編曲法①で学んだ内容を元に、実際の編曲を行う為の実践的項目を修得する。より高度な編曲テクニックに加え旋律／リズムの考察とイントロ・間奏・エンディングの考え方に重点を置きアレンジ作品を書く事を目指す。

学修成果

実際の編曲を行う為の実践的手法が修得できるようになる。

授業展開と内容

第1回	ポピュラー作曲・編曲法①で学んだ内容の確認
第2回	メロディーの骨格化
第3回	カウンターライン
第4回	オブリガート
第5回	フィルラー
第6回	ペダル・ポイント
第7回	クリシェ
第8回	イントロの考察
第9回	イントロの実践
第10回	インターリュードの考察
第11回	インターリュードの実践
第12回	エンディングの考察
第13回	エンディングの実践
第14回	現代的なLoopミュージックの考察
第15回	現代的なLoopミュージックの実践
第16回	楽器の特性について
第17回	記譜法、マスターリズム譜について
第18回	様々なリズム
第19回	リズムセクション編成による編曲作品の制作
第20回	リズムセクション編成によるオリジナル作品の制作
第21回	テンション・リゾルブを効果的に用いたライン
第22回	2声、3声のヴォイスング（シンプルなコーラスアレンジやマリアッチのような小編成のヴォイスング）
第23回	4way Close
第24回	ダイアトニック・アプローチ/クロマチック・アプローチ/ディミニッシュ・アプローチ
第25回	4way closeの応用、Drop2,Drop3,Drop2&4とそれらに相応しい楽器（音色）編成
第26回	移調楽器の楽器法と特徴
第27回	管楽器・弦楽器・鍵盤楽器それぞれのアーティキュレーションと相違点
第28回	ホーン・セクションを含むコンボアレンジ（R & Bや小編成Jazz Band）研究/分析
第29回	ホーン・セクションを含むコンボ編成による編曲作品の制作
第30回	ホーン・セクションを含むコンボ編成によるオリジナル作品の制作

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。提出された課題については必ず授業ごとにアドバイスをを行う。1回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

■ 教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名－クラス名

ポピュラー作曲・編曲法②

電子オルガン

曜日時限

火 4時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	
講義	9～	通年	4	評価割合	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

ポピュラー作曲・編曲法①で学んだ内容を元に、実際の編曲を行う為の実践的項目を修得する。より高度な編曲テクニックに加え旋律／リズムの考察とイントロ・間奏・エンディングの考え方に重点を置きアレンジ作品を書く事を目指す。

学修成果

実際の編曲を行う為の実践的手法が修得できるようになる。

授業展開と内容

第1回	ポピュラー作曲・編曲法①で学んだ内容の確認
第2回	メロディーの骨格化
第3回	カウンターライン
第4回	オブリガート
第5回	フィラー
第6回	ペダル・ポイント
第7回	クリシェ
第8回	イントロの考察
第9回	イントロの実践
第10回	インターリュードの考察
第11回	インターリュードの実践
第12回	エンディングの考察
第13回	エンディングの実践
第14回	現代的なLoopミュージックの考察
第15回	現代的なLoopミュージックの実践
第16回	楽器の特性について
第17回	記譜法、マスターリズム譜について
第18回	様々なリズム
第19回	リズムセクション編成による編曲作品の制作
第20回	リズムセクション編成によるオリジナル作品の制作
第21回	テンション・リゾルブを効果的に用いたライン
第22回	2声、3声のヴォイスング（シンプルなコーラスアレンジやマリアッチのような小編成のヴォイスング）
第23回	4way Close
第24回	ダイアトニック・アプローチ/クロマチック・アプローチ/ディミニッシュ・アプローチ
第25回	4way closeの応用、Drop2,Drop3,Drop2&4とそれらに相応しい楽器（音色）編成
第26回	移調楽器の楽器法と特徴
第27回	管楽器・弦楽器・鍵盤楽器それぞれのアーティキュレーションと相違点
第28回	ホーン・セクションを含むコンボアレンジ（R & Bや小編成Jazz Band）研究/分析
第29回	ホーン・セクションを含むコンボ編成による編曲作品の制作
第30回	ホーン・セクションを含むコンボ編成によるオリジナル作品の制作

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。提出された課題については必ず授業ごとにアドバイスをを行う。1回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

■ 教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名－クラス名

コードプロGRESSION（アドバンス）

ジャズポピュラー-A

曜日時限

火 1時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
講義	1～	通年	4	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

ポピュラー作曲・編曲法①で学んだ内容を元に、実際の編曲を行う為の実践的項目を修得する。より高度な編曲テクニックに加え旋律/リズムの考察とイントロ・間奏・エンディングの考え方に重点を置きアレンジ作品を書く事を目指す。

学修成果

実際の編曲を行う為の実践的手法が修得できるようになる。

授業展開と内容

第1回	ポピュラー作曲・編曲法1で学んだ内容の確認
第2回	コード譜にベースとドラムも書き込んである2～3段のマスターリズム記譜法(4/4拍子)
第3回	コード譜にベースとドラムも書き込んである2～3段のマスターリズム記譜法 (6/8拍子,SmoothJazz)
第4回	効果的な省略法、リフやフィラーを書き足すマスターリズム(Pops)
第5回	効果的な省略法、リフやフィラーを書き足すマスターリズム(Bossa-Nove,SmoothJazz)
第6回	カウンターライン/ペダルポイント Beatles[Yesterday][Help][Back in the U.S.S.R][Hello Goodbye]
第7回	カウンターライン/クリシェ Beatles[Something][While My Guitar Gently Weeps]
第8回	ドミナント7thのテンションを使ってカウンターラインを考える (テンション・リゾルブ)
第9回	カウンターラインの発展としてオブリガートを考える。(マンシーニのシェルブールの雨傘など)
第10回	Intro~Interlude~Endingの考察/Pops
第11回	Intro~Interlude~Endingの考察/Ballad
第12回	Intro~Interlude~Endingの考察/Bossa-Nova
第13回	Intro~Interlude~Endingの考察/J-Pop
第14回	現代的なLoopミュージックの考察
第15回	現代的なLoopミュージックの実践
第16回	ポップスで使われる楽器の特性について (管、弦、打)
第17回	管、弦、鍵盤楽器それぞれのアーティキュレーションと相違点①
第18回	管、弦、鍵盤楽器それぞれのアーティキュレーションと相違点②
第19回	2声のヴォイスिंगと3度と7thでハーモニーを考える練習
第20回	3声のヴォイスिंग/3度と7thとテンション (5度)
第21回	オクターブで有効なR&B的ホーンセクションStevie Wonder[Superstition]Mark Ronson[Uptown Funk]
第22回	オクターブ&3声のR&B的ホーンセクション (3管ホーンセクション・アレンジ) ①
第23回	オクターブ&3声のR&B的ホーンセクション (3管ホーンセクション・アレンジ) ②
第24回	シンプルなメロディーを4Way Closeでヴォイスिंग (ダイアトニックアプローチ)
第25回	非和音のあるメロディーのヴォイスिंग法 (クロマチックアプローチ/ディミニッシュアプローチ)
第26回	非和音のあるメロディーのヴォイスिंग法 (様々なリハーモナイゼーション)
第27回	Drop2.Drop3,Drop2&4
第28回	スプレッド
第29回	ホーン・セクションを含むコンゴ編成によるオリジナル作編曲作品の制作
第30回	ホーン・セクションを含むコンゴ編成によるオリジナル作編曲作品の提出。まとめ。

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。取り組んだ課題については必ず授業ごとにフィードバックを行う。毎回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

■ 教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名-クラス名

コードプロGRESSION (アドバンス)

ジャズポピュラーA

曜日時限

火 1時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
講義	1~	通年	4	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

ポピュラー作曲・編曲法①で学んだ内容を元に、実際の編曲を行う為の実践的項目を修得する。より高度な編曲テクニックに加え旋律/リズムの考察とイントロ・間奏・エンディングの考え方に重点を置きアレンジ作品を書く事を目指す。

学修成果

実際の編曲を行う為の実践的手法が修得できるようになる。

授業展開と内容

- 第1回 ポピュラー作曲・編曲法1で学んだ内容の確認
- 第2回 コード譜にベースとドラムも書き込んである2~3段のマスターリズム記譜法(4/4拍子)
- 第3回 コード譜にベースとドラムも書き込んである2~3段のマスターリズム記譜法 (6/8拍子,SmoothJazz)
- 第4回 効果的な省略法、リフやフィラーを書き足すマスターリズム(Pops)
- 第5回 効果的な省略法、リフやフィラーを書き足すマスターリズム(Bossa-Nove,SmoothJazz)
- 第6回 カウンターライン/ペダルポイント Beatles[Yesterday][Help][Back in the U.S.S.R][Hello Goodbye]
- 第7回 カウンターライン/クリシェ Beatles[Something][While My Guitar Gently Weeps]
- 第8回 ドミナント7thのテンションを使ってカウンターラインを考える (テンション・リゾルブ)
- 第9回 カウンターラインの発展としてオブリガートを考える。(マンシーニのシェルブールの雨傘など)
- 第10回 Intro~Interlude~Endingの考察/Pops
- 第11回 Intro~Interlude~Endingの考察/Ballad
- 第12回 Intro~Interlude~Endingの考察/Bossa-Nova
- 第13回 Intro~Interlude~Endingの考察/J-Pop
- 第14回 現代的なLoopミュージックの考察
- 第15回 現代的なLoopミュージックの実践
- 第16回 ポップスで使われる楽器の特性について (管、弦、打)
- 第17回 管、弦、鍵盤楽器それぞれのアーティキュレーションと相違点①
- 第18回 管、弦、鍵盤楽器それぞれのアーティキュレーションと相違点②
- 第19回 2声のヴォイスिंगと3度と7thでハーモニーを考える練習
- 第20回 3声のヴォイスिंग/3度と7thとテンション (5度)
- 第21回 オクターブで有効なR&B的ホーンセクションStevie Wonder[Superstition]Mark Ronson[Uptown Funk]
- 第22回 オクターブ&3声のR&B的ホーンセクション (3管ホーンセクション・アレンジ) ①
- 第23回 オクターブ&3声のR&B的ホーンセクション (3管ホーンセクション・アレンジ) ②
- 第24回 シンプルなメロディーを4Way Closeでヴォイスिंग (ダイアトニックアプローチ)
- 第25回 非和音のあるメロディーのヴォイスिंग法 (クロマチックアプローチ/ディミニッシュアプローチ)
- 第26回 非和音のあるメロディーのヴォイスिंग法 (様々なリハーモナイゼーション)
- 第27回 Drop2.Drop3,Drop2&4
- 第28回 スプレッド
- 第29回 ホーン・セクションを含むコンゴ編成によるオリジナル作編曲作品の制作
- 第30回 ホーン・セクションを含むコンゴ編成によるオリジナル作編曲作品の提出。まとめ。

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。取り組んだ課題については必ず授業ごとにフィードバックを行う。毎回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

■ 教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名-クラス名

ジャズの歴史と作品

曜日時限

水 1時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
講義	1~	後期	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				0	100	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ジャズが生まれてから100年余りの歴史を、実際の映像や録音を聴きながらスタイルの変遷と共に時系列で学んで行く。特に、創世記の様々な背景、クラシック音楽やポピュラー音楽への影響も加味しながら、最後にジャズとは何か？について考察する。

学修成果

ジャズ史を理解し、様々なスタイルを鑑賞する事でジャズとは何かを考察し、今後の自身の音楽活動に役立てる。また、ジャズは更に進化を続けるジャンルである事を認識し、音楽家として新しい道を模索する手がかりを得る。

授業展開と内容

- 第1回 ジャズが生まれるまでの時代背景（南北戦争や奴隷解放）～ラグタイムやブルース
- 第2回 ニューオーリンズ&デキシーランドジャズ（様々な交差点）～King Oliver & Louis Armstrong等
- 第3回 スイングジャズ（禁酒法の影響）～Benny Goodman, Tommy Dorsey, Glenn Miller, Harry James, Woody Harman等
- 第4回 ビッグバンドジャズ～ Count Basie, Duke Ellington等
- 第5回 ビ・バップの誕生（LPレコードの出現）～Charlie Parker & Dizzy Gillespie等
- 第6回 Birth Of The Cool～Miles Davis&Gil Evans等
- 第7回 クールジャズ（西海岸）～Stan Kenton & Jelly Malligan & Dave Brubeck等
- 第8回 ハード・バップ～Horace Silver & Art Blakey等
- 第9回 ジャズシンガー達～Nat King Cloe, Tony Bennett, Frank Sinatra, Billie Holiday, Ella Fitzgerald, Carmen McRae, Sara Vaughan等
- 第10回 クラシック&ミュージカルへの影響～George Gershwin, Cole Porter等
- 第11回 フリージャズ(ポップミュージックの台頭)～John Coltrane, Ornette Colman, Cecil Taylor等
- 第12回 エレクトリックフュージョン（サイケデリックロックの台頭）～Miles Davis, Weather Report, Mahavishnu Orchestra等
- 第13回 90年代（新古典主義）～Wynton Marsalis等
- 第14回 クラブジャズ&ニュースタイル～Gregory Porter, Robert Glasper, Kamasi Washington等
- 第15回 これからのジャズ～アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリア、そしてアジア
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

全ての講義を聞いた後に、気になったアーティストやグループを一つ選び、リサーチ後にレポート提出していただきます。更に講義は後期15回しかありませんので、出席数は成績に大きく影響します。（本学のルールにより、1/3以上を欠席すると単位認定は難しくなります）

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

それぞれの時代の話題に挙がる人物名やトピックは毎回Teams内にUpしますが、授業内では紹介しきれない部分もあるので、個々で検索し、興味のあるものは各自リサーチすること。毎回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

教科書・参考書

特にありません。

但し、沢山の文献、書物が出ていますので、興味のあるものは自主的に読み進めてください。

科目名－クラス名

ジャズの歴史と作品

曜日時限

水 1時限

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
講義	1～	後期	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				0	100	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ジャズが生まれてから100年余りの歴史を、実際の映像や録音を聴きながらスタイルの変遷と共に時系列で学んで行く。特に、創世記の様々な背景、クラシック音楽やポピュラー音楽への影響も加味しながら、最後にジャズとは何か？について考察する。

学修成果

ジャズ史を理解し、様々なスタイルを鑑賞する事でジャズとは何かを考察し、今後の自身の音楽活動に役立てる。また、ジャズは更に進化を続けるジャンルである事を認識し、音楽家として新しい道を模索する手がかりを得る。

授業展開と内容

- 第1回 ジャズが生まれるまでの時代背景（南北戦争や奴隷解放）～ラグタイムやブルース
- 第2回 ニューオーリンズ&デキシーランドジャズ（様々な交差点）～King Oliver & Louis Armstrong等
- 第3回 スイングジャズ（禁酒法の影響）～Benny Goodman, Tommy Dorsey, Glenn Miller, Harry James, Woody Harman等
- 第4回 ビッグバンドジャズ～ Count Basie, Duke Ellington等
- 第5回 ビ・バップの誕生（LPレコードの出現）～Charlie Parker & Dizzy Gillespie等
- 第6回 Birth Of The Cool～Miles Davis&Gil Evans等
- 第7回 クールジャズ（西海岸）～Stan Kenton & Jelly Malligan & Dave Brubeck等
- 第8回 ハード・バップ～Horace Silver & Art Blakey等
- 第9回 ジャズシンガー達～Nat King Cloe, Tony Bennett, Frank Sinatra, Billie Holiday, Ella Fitzgerald, Carmen McRae, Sara Vaughan等
- 第10回 クラシック&ミュージカルへの影響～George Gershwin, Cole Porter等
- 第11回 フリージャズ(ポップミュージックの台頭)～John Coltrane, Ornette Colman, Cecil Taylor等
- 第12回 エレクトリックフュージョン（サイケデリックロックの台頭）～Miles Davis, Weather Report, Mahavishnu Orchestra等
- 第13回 90年代（新古典主義）～Wynton Marsalis等
- 第14回 クラブジャズ&ニュースタイル～Gregory Porter, Robert Glasper, Kamasi Washington等
- 第15回 これからのジャズ～アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリア、そしてアジア
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

全ての講義を聞いた後に、気になったアーティストやグループを一つ選び、リサーチ後にレポート提出していただきます。更に講義は後期15回しかありませんので、出席数は成績に大きく影響します。（本学のルールにより、1/3以上を欠席すると単位認定は難しくなります）

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

それぞれの時代的话题に挙がる人物名やトピックは毎回Teams内にUpしますが、授業内では紹介しきれない部分もあるので、個々で検索し、興味のあるものは各自リサーチすること。毎回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

教科書・参考書

特にありません。

但し、沢山の文献、書物が出ていますので、興味のあるものは自主的に読み進めてください。

科目名－クラス名

パフォーマンス①

曜日時限

他

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習		通年	1	0	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

各コースにおいて実施される授業およびその成果発表となる公演に、コース内でその授業の対象年次以外の学生、あるいは、他の学科・コースに所属する学生が一員として参加し、一連の演習、リハーサル、ゲネプロ、本番を経験することでその全体像を学ぶ。また、ホールや舞台の持つ様々な機構や機能を体感・体験することで、総合芸術への理解を深める。

学修成果

自身のカリキュラム外となる他コースの授業およびその授業成果となる公演に参加することで、幅広い舞台経験を積むことができ、多彩な演奏技術や表現方法を身につけることができる。また、多様な出演者、スタッフと協働して公演を作り上げる体験をすることで、柔軟で的確なコミュニケーション能力を獲得することができ、自身の専門分野にも大きく役立てることができる。

授業展開と内容

第1回 オリエンテーション（授業の進め方、パート分け・配役等）

第2回 作品理解のための演習（楽譜・台本等の読み取り）

第3回 作品理解のための演習（作品の全体像の把握）

第4回 作品理解のための演習（パートの役割の理解）

第5回 作品表現のための演習（作品全体における各パートの位置づけの検討）

第6回 作品表現のための演習（表現アイディアの検討）

第7回 作品表現のための演習（表現アイディアの実現）

第8回 作品表現のための演習（アンサンブルでの表現）

第9回 公演に向けたリハーサル（プログラミング全体の把握）

第10回 公演に向けたリハーサル（スタッフの動きの把握）

第11回 公演に向けたリハーサル（本番の進行の把握）

第12回 会場リハーサル（セッティング・場当たり、粗通し）

第13回 会場リハーサル（返しリハ）

第14回 ゲネプロ

第15回 公演本番

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

第29回

第30回

履修上の注意

本科目は担当教員から指名された学生だけが履修できる科目である。履修登録手続きは通常とは異なり、当該授業およびその成果発表となる公演を実施するコースを所管する部会あるいは分科会が教育課程委員会に諮り、承認された後、学生が教務課で手続きをするものとする。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

別途、授業内で指示する。

■ 教科書・参考書

必要に応じて指示する。

科目名－クラス名

パフォーマンス①

曜日時限

他

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習		通年	1	0	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

各コースにおいて実施される授業およびその成果発表となる公演に、コース内でその授業の対象年次以外の学生、あるいは、他の学科・コースに所属する学生が一員として参加し、一連の演習、リハーサル、ゲネプロ、本番を経験することでその全体像を学ぶ。また、ホールや舞台の持つ様々な機構や機能を体感・体験することで、総合芸術への理解を深める。

学修成果

自身のカリキュラム外となる他コースの授業およびその授業成果となる公演に参加することで、幅広い舞台経験を積むことができ、多彩な演奏技術や表現方法を身につけることができる。また、多様な出演者、スタッフと協働して公演を作り上げる体験をすることで、柔軟で的確なコミュニケーション能力を獲得することができ、自身の専門分野にも大きく役立てることができる。

授業展開と内容

第1回 オリエンテーション（授業の進め方、パート分け・配役等）

第2回 作品理解のための演習（楽譜・台本等の読み取り）

第3回 作品理解のための演習（作品の全体像の把握）

第4回 作品理解のための演習（パートの役割の理解）

第5回 作品表現のための演習（作品全体における各パートの位置づけの検討）

第6回 作品表現のための演習（表現アイディアの検討）

第7回 作品表現のための演習（表現アイディアの実現）

第8回 作品表現のための演習（アンサンブルでの表現）

第9回 公演に向けたリハーサル（プログラミング全体の把握）

第10回 公演に向けたリハーサル（スタッフの動きの把握）

第11回 公演に向けたリハーサル（本番の進行の把握）

第12回 会場リハーサル（セッティング・場当たり、粗通し）

第13回 会場リハーサル（返しリハ）

第14回 ゲネプロ

第15回 公演本番

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

第29回

第30回

履修上の注意

本科目は担当教員から指名された学生だけが履修できる科目である。履修登録手続きは通常とは異なり、当該授業およびその成果発表となる公演を実施するコースを所管する部会あるいは分科会が教育課程委員会に諮り、承認された後、学生が教務課で手続きをするものとする。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

別途、授業内で指示する。

■ 教科書・参考書

必要に応じて指示する。

科目名－クラス名

パフォーマンス②

曜日時限

他

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
演習		通年	1	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
				0	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

各コースにおいて実施される授業およびその成果発表となる公演に、コース内でその授業の対象年次以外の学生、あるいは、他の学科・コースに所属する学生が一員として参加し、一連の演習、リハーサル、ゲネプロ、本番を経験することでその全体像を学ぶ。パフォーマンス①での経験を生かしながら、更に積極的に各セクションの役割に注目し、全体の中での自分の役割について考える。

学修成果

自身のカリキュラム外となる他コースの授業およびその授業成果となる公演に参加することで、幅広い舞台経験を積むことができ、多彩な演奏技術や表現方法を身につけることができる。また、多様な出演者、スタッフと協働して公演を作り上げる体験をすることで、柔軟で的確なコミュニケーション能力を獲得することができる。更に、公演ごとに違った指揮者、演出家などの指導を体験し、自らの表現の幅を様々な角度から広げることができる。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（授業の進め方、パート分け・配役等）
第2回	作品理解のための演習（楽譜・台本等の正確な読み取り）
第3回	作品理解のための演習（作品の全体像の正確な把握）
第4回	作品理解のための演習（パートの役割のより深い理解）
第5回	作品表現のための演習（作品全体における各パートの位置づけの理解）
第6回	作品表現のための演習（より高度な表現アイディアの検討）
第7回	作品表現のための演習（より高度な表現アイディアの実現）
第8回	作品表現のための演習（アンサンブルでのより高度な表現）
第9回	公演に向けたリハーサル（プログラムの意図の理解）
第10回	公演に向けたリハーサル（スタッフの動きとパフォーマンスの関係の把握）
第11回	公演に向けたリハーサル（本番の進行のなかでの出演者・スタッフの動きの把握）
第12回	会場リハーサル（セッティング・場当たり、粗通し）
第13回	会場リハーサル（返しリハ）
第14回	ゲネプロ
第15回	公演本番
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

本科目は担当教員から指名された学生だけが履修できる科目である。履修登録手続きは通常とは異なり、当該授業およびその成果発表となる公演を実施するコースを所管する部会あるいは分科会が教育課程委員会に諮り、承認された後、学生が教務課で手続きをするものとする。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

別途、授業内で指示する。

■ 教科書・参考書

必要に応じて指示する。

科目名－クラス名

パフォーマンス②

曜日時限

他

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
演習		通年	1	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				0	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

各コースにおいて実施される授業およびその成果発表となる公演に、コース内でその授業の対象年次以外の学生、あるいは、他の学科・コースに所属する学生が一員として参加し、一連の演習、リハーサル、ゲネプロ、本番を経験することでその全体像を学ぶ。パフォーマンス①での経験を生かしながら、更に積極的に各セクションの役割に注目し、全体の中での自分の役割について考える。

学修成果

自身のカリキュラム外となる他コースの授業およびその授業成果となる公演に参加することで、幅広い舞台経験を積むことができ、多彩な演奏技術や表現方法を身につけることができる。また、多様な出演者、スタッフと協働して公演を作り上げる体験をすることで、柔軟で的確なコミュニケーション能力を獲得することができる。更に、公演ごとに違った指揮者、演出家などの指導を体験し、自らの表現の幅を様々な角度から広げることができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（授業の進め方、パート分け・配役等）
- 第2回 作品理解のための演習（楽譜・台本等の正確な読み取り）
- 第3回 作品理解のための演習（作品の全体像の正確な把握）
- 第4回 作品理解のための演習（パートの役割のより深い理解）
- 第5回 作品表現のための演習（作品全体における各パートの位置づけの理解）
- 第6回 作品表現のための演習（より高度な表現アイディアの検討）
- 第7回 作品表現のための演習（より高度な表現アイディアの実現）
- 第8回 作品表現のための演習（アンサンブルでのより高度な表現）
- 第9回 公演に向けたリハーサル（プログラムの意図の理解）
- 第10回 公演に向けたリハーサル（スタッフの動きとパフォーマンスの関係の把握）
- 第11回 公演に向けたリハーサル（本番の進行のなかでの出演者・スタッフの動きの把握）
- 第12回 会場リハーサル（セッティング・場当たり、粗通し）
- 第13回 会場リハーサル（返しリハ）
- 第14回 ゲネプロ
- 第15回 公演本番
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

本科目は担当教員から指名された学生だけが履修できる科目である。履修登録手続きは通常とは異なり、当該授業およびその成果発表となる公演を実施するコースを所管する部会あるいは分科会が教育課程委員会に諮り、承認された後、学生が教務課で手続きをするものとする。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

別途、授業内で指示する。。

■ 教科書・参考書

必要に応じて指示する。

科目名－クラス名

パフォーマンス④

曜日時限

他

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
演習		通年	1	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				0	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

各コースにおいて実施される授業およびその成果発表となる公演に、コース内でその授業の対象年次以外の学生、あるいは、他の学科・コースに所属する学生が一員として参加し、一連の演習、リハーサル、ゲネプロ、本番を経験することでその全体像を学ぶ。パフォーマンス①②③で培った力を生かし、積極的なコミュニケーションをとってメンバーを纏めるなど、自ら考え主体的に公演に関わることで、社会生活における自己実現の力を養っていく。

学修成果

自身のカリキュラム外となる他コースの授業およびその授業成果となる公演に参加することで、幅広い舞台経験を積むことができ、多彩な演奏技術や表現方法を身につけることができる。また、多様な出演者、スタッフと協働して公演を作り上げる体験をすることで、柔軟で的確なコミュニケーション能力を獲得することができる。更に、積み上げてきた経験を基に、自分が置かれた状況を俯瞰的に捉え臨機応変な対応ができるようになる。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（授業の進め方、パート分け・配役等）
第2回	作品理解のための演習（楽譜・台本等のより深い理解と表現方法の検討）
第3回	作品理解のための演習（作品の全体像の把握にもとづくパートの役割のより深い理解）
第4回	作品理解のための演習（パートの役割のより深い理解にもとづく表現方法の検討）
第5回	作品表現のための演習（作品全体における各パートの関係のより深い理解）
第6回	作品表現のための演習（より高度な表現アイディアの検討と実現）
第7回	作品表現のための演習（アンサンブルの全体像を把握した上での表現）
第8回	作品表現のための演習（アンサンブル全体のより高度な表現の検討）
第9回	公演に向けたリハーサル（プログラムの意図を理解したより高度なパフォーマンス）
第10回	公演に向けたリハーサル（スタッフの動きと連携したより高度なパフォーマンス）
第11回	公演に向けたリハーサル（本番の全体像を理解した上でのパフォーマンス）
第12回	会場リハーサル（セッティング・場当たり、粗通し）
第13回	会場リハーサル（返しリハ）
第14回	ゲネプロ
第15回	公演本番
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

本科目は担当教員から指名された学生だけが履修できる科目である。履修登録手続きは通常とは異なり、当該授業およびその成果発表となる公演を実施するコースを所管する部会あるいは分科会が教育課程委員会に諮り、承認された後、学生が教務課で手続きをするものとする。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

別途、授業内で指示する。

■ 教科書・参考書

必要に応じて指示する。

科目名－クラス名

卒業ライブ

曜日時限

担当教員

集中

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	4～	後期	1	0	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

卒業ライブは、アンサンブル授業を中心に4年間習得したそれぞれの主科実技やその他全ての成果の発表の場となる。リハーサル、GP、本番までの流れで演奏を行なう。ジューリオでの大きな公演であるため、お客様へ観せられる・聴かせられるステージを行なうことが大きな目標となる。学生のオリジナル曲発表の場でもある。

学修成果

①人に聴かせられる、観せられる演奏・ステージ演出ができる②楽曲のニュアンス・ダイナミクスを考え演奏できる③大きな演奏会・ステージの流れを把握できる④大学で学んだ成果の確認ができる

授業展開と内容

- 第1回 ガイダンス、各楽曲のリハーサル、演奏曲練習（卒業ライブ演目・オリジナル曲等）
- 第2回 各楽曲リハーサルの繰り返し、演奏曲練習（卒業ライブ演目・オリジナル曲等）
- 第3回 各楽曲リハーサルの繰り返し、ステージ上での動きの指導等。演奏曲練習（卒業ライブ演目・オリジナル曲等）
- 第4回 各楽曲リハーサルの繰り返し、ステージ上での動きの指導等。演奏曲練習（卒業ライブ演目・オリジナル曲等）
- 第5回 各楽曲リハーサルの繰り返し、ステージ上での動きの指導等。演奏曲練習（卒業ライブ演目・オリジナル曲等）
- 第6回 各楽曲リハーサルの繰り返し、ステージ上での動きや演出上の指導等。演奏曲練習（卒業ライブ演目・オリジナル曲等）
- 第7回 各楽曲リハーサルの繰り返し、ステージ上での動きや演出上の指導等。演奏曲練習（卒業ライブ演目・オリジナル曲等）
- 第8回 ジューリオでの返し稽古
- 第9回 ジューリオでの返し稽古
- 第10回 ジューリオでの返し稽古
- 第11回 ジューリオでの返し稽古
- 第12回 ジューリオでのGP、本番
- 第13回 ジューリオでのGP、本番
- 第14回 ジューリオでのGP、本番
- 第15回 ジューリオでのGP、本番
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

リハーサル・本番のための楽器移動・準備等も授業の一部となっているため全員参加すること。本番日より前2週間の予定はおさえておき、やむを得ない欠席についてはリハーサル日程が発表された段階で事前に相談をすること。舞台スタッフコースの授業でもあるため、全ての時間を厳守のこと。オリジナル曲は事前エントリーとし担当講師・部会にて選出する。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

与えられた課題曲等を練習すること。個人練習の時間を確保すること。耳コピーやバンド活動、セッション参加を積極的に行なうこと。

■ 教科書・参考書

必要に応じて配付する。

科目名－クラス名

卒業ライブ

曜日時限

集中

担当教員

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	2～	後期	1	0	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

卒業ライブは、アンサンブル授業を中心に2年間習得したそれぞれの主科実技やその他全ての成果の発表の場となる。リハーサル、GP、本番までの流れで演奏を行なう。ジューリオでの大きな公演であるため、お客様へ観せられる・聴かせられるステージを行なうことが大きな目標となる。学生のオリジナル曲発表の場でもある。

学修成果

①人に聴かせられる、観せられる演奏・ステージ演出ができる②楽曲のニュアンス・ダイナミクスを考え演奏できる③大きな演奏会・ステージの流れを把握できる④大学で学んだ成果の確認ができる

授業展開と内容

第1回 ガイダンス、各楽曲のリハーサル、演奏曲練習（卒業ライブ演目・オリジナル曲等）

第2回 各楽曲リハーサルの繰り返し、演奏曲練習（卒業ライブ演目・オリジナル曲等）

第3回 各楽曲リハーサルの繰り返し、ステージ上での動きの指導等。演奏曲練習（卒業ライブ演目・オリジナル曲等）

第4回 各楽曲リハーサルの繰り返し、ステージ上での動きの指導等。演奏曲練習（卒業ライブ演目・オリジナル曲等）

第5回 各楽曲リハーサルの繰り返し、ステージ上での動きの指導等。演奏曲練習（卒業ライブ演目・オリジナル曲等）

第6回 各楽曲リハーサルの繰り返し、ステージ上での動きや演出上の指導等。演奏曲練習（卒業ライブ演目・オリジナル曲等）

第7回 各楽曲リハーサルの繰り返し、ステージ上での動きや演出上の指導等。演奏曲練習（卒業ライブ演目・オリジナル曲等）

第8回 ジューリオでの返し稽古

第9回 ジューリオでの返し稽古

第10回 ジューリオでの返し稽古

第11回 ジューリオでの返し稽古

第12回 ジューリオでのGP、本番

第13回 ジューリオでのGP、本番

第14回 ジューリオでのGP、本番

第15回 ジューリオでのGP、本番

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

第29回

第30回

履修上の注意

リハーサル・本番のための楽器移動・準備等も授業の一部となっているため全員参加すること。本番日より前2週間の予定はおさえておき、やむを得ない欠席についてはリハーサル日程が発表された段階で事前に相談をすること。舞台スタッフコースの授業でもあるため、全ての時間を厳守のこと。オリジナル曲は事前エントリーとし担当講師・部会にて選出する。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

与えられた課題曲等を練習すること。個人練習の時間を確保すること。耳コピーやバンド活動、セッション参加を積極的に行なうこと。

■ 教科書・参考書

必要に応じて配付する。

科目名－クラス名

インストゥルメンツII①

曜日時限

担当教員

実技

池田 雅明

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	1～	通年	2	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト
				評価割合	100	0	0	0	0

教育到達目標と概要

ポピュラー系楽器の基本的な奏法を学ぶ。副科であるため経験・未経験と個々の能力・状況に応じて初歩的な基礎技術から、進歩に応じたテクニック等を課題楽曲に取り組みながら主科以外の楽器の技術向上を目指す。各楽器を通して音楽的視野を広げてゆく。

学修成果

①主科以外の楽器を演奏することができる。②音楽的視野を広げる事ができる。③主科の楽器にも良い影響を与える事ができる。

授業展開と内容

第1回	ベーシクトレーニング（スケール等）、課題曲①演奏、レベルに応じた指導
第2回	ベーシクトレーニング（発音、発声等）、課題曲①演奏、レベルに応じた指導
第3回	ベーシクトレーニング（ルーディメンツ等）、課題曲①演奏、レベルに応じた指導
第4回	ベーシクトレーニング（スケール等）、課題曲②演奏、レベルに応じた指導
第5回	ベーシクトレーニング（発音、発声等）、課題曲②演奏、レベルに応じた指導
第6回	ベーシクトレーニング（ルーディメンツ等）、課題曲②演奏、レベルに応じた指導
第7回	ベーシクトレーニング（スケール等）、課題曲③演奏、レベルに応じた指導
第8回	ベーシクトレーニング（発音、発声等）、課題曲③演奏、レベルに応じた指導
第9回	ベーシクトレーニング（ルーディメンツ等）、課題曲③演奏、レベルに応じた指導
第10回	ベーシクトレーニング（スケール等）、課題曲③演奏、レベルに応じた指導
第11回	ベーシクトレーニング（発音、発声等）、課題曲③演奏、レベルに応じた指導
第12回	ベーシクトレーニング（ルーディメンツ等）、課題曲③演奏、レベルに応じた指導
第13回	ベーシクトレーニング（スケール等）、前期実技試験曲演奏、レベルに応じた指導
第14回	ベーシクトレーニング（発音、発声等）、前期実技試験曲演奏、レベルに応じた指導
第15回	ベーシクトレーニング（ルーディメンツ等）、前期実技試験曲演奏、レベルに応じた指導
第16回	ベーシクトレーニング（スケール等）、課題曲④演奏、レベルに応じた指導
第17回	ベーシクトレーニング（発音、発声等）、課題曲④演奏、レベルに応じた指導
第18回	ベーシクトレーニング（ルーディメンツ等）、課題曲④演奏、レベルに応じた指導
第19回	ベーシクトレーニング（スケール等）、課題曲⑤演奏、レベルに応じた指導
第20回	ベーシクトレーニング（発音、発声等）、課題曲⑤演奏、レベルに応じた指導
第21回	ベーシクトレーニング（ルーディメンツ等）、課題曲⑤演奏、レベルに応じた指導
第22回	ベーシクトレーニング（スケール等）、課題曲⑥演奏、レベルに応じた指導
第23回	ベーシクトレーニング（発音、発声等）、課題曲⑥演奏、レベルに応じた指導
第24回	ベーシクトレーニング（ルーディメンツ等）、課題曲⑥演奏、レベルに応じた指導
第25回	ベーシクトレーニング（スケール等）、課題曲⑦演奏、レベルに応じた指導
第26回	ベーシクトレーニング（発音、発声等）、課題曲⑦演奏、レベルに応じた指導
第27回	ベーシクトレーニング（ルーディメンツ等）、課題曲⑦演奏、レベルに応じた指導
第28回	ベーシクトレーニング（スケール等）、後期実技試験曲演奏、レベルに応じた指導
第29回	ベーシクトレーニング（発音、発声等）、後期実技試験曲演奏、レベルに応じた指導
第30回	ベーシクトレーニング（ルーディメンツ等）、後期実技試験曲演奏、レベルに応じた指導

履修上の注意

レッスン受講に際しては基礎・課題曲練習を十分行ない準備をし臨むこと。レッスン用の五線譜ノート、筆記用具は毎回必須であり必要に応じてノートすること。礼儀を大切に、無断欠席や遅刻をしないこと。与えられた課題曲等を次回レッスンまでに練習・準備しておくこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

与えられたベーシックトレーニング・課題曲等を練習すること。耳コピー等を行なう事。個人練習の時間を確保すること。1回のレッスンに臨むにあたり、2時間の自学修を必要とします。取り組んだ課題については各レッスン回でフィードバックを行います。

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

2022年度(前期)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：2327 教員名：池田 雅明

1) 評価結果に対する所見

A、Bどちらのクラスも概ね満足度の高い評価をいただいた。
但し、開講曜日の関係でBクラスだけは複数担当教員制となったことにより、様々な教員が自分の専門楽器に特化した授業を展開出来るメリットもあった反面、教員同士の連携が上手く図れず、学生への課題等、事前周知が遅れ気味となる部分もあった。

2) 要望への対応・改善方策

コロナ禍より稼働した Teams のクラスチームページを更に有効活用することとし、学生への事前連絡、教員同士の連携、データ&情報共有を促進していきたい。

3) 今後の課題

この授業本来の目的である「初級レコーディング体験」をより効率的に行う為、基本的にはどちらのクラスにもメイン教員を設定しておく必要性を感じた。その上で、今後もオムニバス形式による様々な楽器の教員に数回程ご担当いただきながら、各学生の専門楽器以外の録音知識も同時に伝授できるようにし、授業の汎用性を高めていきたい。

以 上

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：2327 教員名：池田 雅明

1) 評価結果に対する所見

開講4年目になる「ジャズの歴史と作品」に於いては内容を更にスリム化し、トピック毎のファイルを Teams 上にアップ、それに沿った演奏家紹介を実際の動画と共に説明する方式により、概ねジャズに対しての興味が持てたとの評価をいただいた。但し、100名近い受講者を擁する講義科目としてはどうしても一方的な講義形式は避けられず、「学生とのコミュニケーションに努めながら」という項目に対しては更なる改善策を検討する。

ポピュラー音楽理論に相当する「コードプログレッション」授業に関しては、昨年度より上級クラスを担当する中、アドバンスクラスにて実施したアプローチ（出来るだけ今の音楽ニーズを捉えるべく、学生からの楽曲提供による学生自身のアナライズにより答えを誘導する授業法）の満足度が高かった為、ベーシッククラスにも踏襲した。結果、新入生の多いベーシッククラスに於いては特に昨年の個人レベル差が大きかった為か、満足度にバラつきが生じたと考えられる。とりわけ楽曲制作の経験があるサウンドプロデュース系の学生に対しては楽曲アナライズだけではなく、もう少し踏み込んだ作編曲課題も視野に入れる必要があると感じた。

実技系アンサンブル授業に関しては、理論系授業に比べてジャズ、ポピュラー系共に学生とのコミュニケーションが図りやすい為、レベルに合った細かな指導、その時に応じたセッション方式が学生の満足度に繋がっていると思われる。

2) 要望への対応・改善方策

「ジャズの歴史と作品」授業に於ける出欠記録に対する要望に関しては、来年度より授業開始直後に出欠 Forms を実施し、遅刻者に対しては別に記録する事で対処することとする。

「ジャズアンサンブルⅠ」に於けるヴォーカリストの授業参加に関しては、昨年までに概ねライブラリーも整え、毎週歌唱参加いただく事により解決を見た。今後も継続的にヴォーカル系新譜の購入、レパートリーの拡充を図っていく。

3) 今後の課題

「ジャズアンサンブルⅠ」に於けるヴォーカリスト受講者は大学院生も含めると年々増え続け、毎回の授業にて全員が歌唱参加することは時間配分的にも難しくなる事が予想される為、数年前に行っていた同時限開講のビッグバンド用ヴォーカルクラスを別に設置して連携する等、来年度に向けて更なる検討を重ねていきたい。

以上